

県立高等学校における生徒の 多様な受入れのあり方について (案)

【 報 告 】

平成 30 年 7 月 日

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議

目 次

はじめに	1
I 県立高等学校の現状	2
1 県立高等学校の現状	2
(1) 中学校卒業者数等	2
(2) 学校数	2
(3) 学科の構成	2
2 入学者選抜について	2
(1) 入学者選抜の制度概要	2
(2) 県立高等学校の募集定員・合格者等の状況	3
(3) 通学区域の状況	3
II 県外からの入学志願者の受入れのあり方	3
1 本県における県外からの入学志願者の受入れ状況	3
(1) 県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定（隣接協定）による受入れ	3
(2) 特別入学志願者取扱による受入れ	3
2 県外からの入学志願者の受入れのあり方に関する意見	4
(1) アンケート調査結果	4
(2) 市町村教育委員会（33市町村）との意見交換	5
3 全国における県外からの入学志願者の受入れ状況	5
(1) 県外からの入学志願者の受入れ（全国募集）に関する状況調査	5
(2) 全国の主な事例	5
4 本県における県外からの入学志願者の受入れ検討の視点	6
(1) 県内生徒の学ぶ機会の確保	6
(2) 高等学校存続を前提とした地域振興に取り組む自治体への配慮	6
(3) 地域（自治体）等と連携した魅力ある学校・地域づくりと地域の将来を担う人材育成	7
5 本県における県外からの入学志願者の受入れのあり方についての提言	7
(1) 県外からの入学志願者の受入れの必要性について	7
(2) 受入れの制限について	7
(3) 受入れ環境（生徒の生活面のサポート）について	7
(4) 学校と地域等との連携・協働による教育活動を通じた魅力ある学校・地域づくりについて	7
III 通学区域のあり方	7
1 通学区域の状況等	7
(1) 通学区域設定の趣旨	7
(2) 本県の学区外からの入学志願の状況	8
(3) 通学区域に係る法改正	8

2	通学区域に関する意見	8
(1)	アンケート調査結果	8
(2)	市町村教育委員会（33市町村）との意見交換	8
(3)	県民との意見交換	9
3	全国における通学区域の状況	9
4	通学区域の設定による影響と課題等	9
(1)	通学区域を維持する場合について	9
(2)	通学区域を撤廃（全県一区）する場合について	10
(3)	一部地域に限り通学区域を拡大（緩和）する場合について	10
5	本県における通学区域のあり方の検討の視点	10
(1)	制度の変更に伴う各高等学校への入学志願の傾向の変化	10
(2)	学校間格差（学校の序列化）	11
(3)	中学生の多様な進路目標の実現に向けた配慮	11
(4)	地理的条件	11
6	本県における通学区域のあり方についての提言	11
	おわりに	12

はじめに

県教育委員会においては、平成 12 年度に「県立高等学校新整備計画」を策定し、生徒急減期に対応した県立高等学校の再編整備に取り組み、さらに平成 22 年度には「今後の高等学校教育の基本的方向」（以下「基本的方向」という。）を策定し、新たな再編整備に向けた計画策定の作業を進めてきたが、平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生したことにより、その復旧・復興を最優先で進めるため、計画策定の作業を中断した。

平成 26 年度に入り、震災から約 3 年が経過する中で、少子化の一層の進行や社会状況の変化等に対応するため、計画策定作業を再開することとし、震災の影響等も考慮した基本的方向を見直すに当たり、平成 26 年 5 月に外部有識者を委員とする県立高等学校教育の在り方検討委員会を設置した。今後の県立高等学校のあり方について検討を重ね、平成 26 年 12 月に提出された報告書に基づき、先に策定した「基本的方向」を平成 27 年 4 月に改訂した。

平成 27 年度には、改訂した「基本的方向」を基に県内各ブロックで意見交換を重ね、平成 27 年 12 月に「新たな県立高等学校再編計画（案）」を公表、その後、パブリック・コメント等の意見を踏まえ、平成 28 年 3 月に望ましい学校規模の確保による教育の質の保証と、本県の地理的諸条件等を踏まえた教育の機会の保障を大きな柱とした「新たな県立高等学校再編計画」（以下「再編計画」という。）を策定し、現在、その着実な推進に取り組んでいる。

しかし、将来的に中学校卒業予定者は更なる減少が見込まれており、各高等学校における入学者の確保がより一層困難な状況になること等が予想されている。そのような中で、地方創生に取り組む地域等からは、県外からの入学志願者の受け入れを要望されるなど、将来を担う人材の育成や、ふるさと振興の観点から、県外からの入学志願者の受入れや通学区域のあり方について、本県の実態を踏まえた幅広い検討を行う必要も生じている。

このような状況を踏まえ県教育委員会は、県外からの入学志願者の受入れのあり方や通学区域のあり方について検討するため、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議（以下「検討会議」という。）を設置した。第 1 回会議が、平成 29 年 6 月に開催され、県教育委員会教育長から生徒の多様な受入れのあり方について検討の要請を受けた。

本検討会議では、平成 30 年 7 月までの計 4 回にわたった協議の中で、県立高等学校における県外からの入学志願者の受入れ等についての現状等を改めて把握するとともに、県内すべての公立中学校、義務教育学校、県立高等学校の校長及び P T A 会長を対象に実施したアンケート結果と県内全市町村教育長から伺った意見等も参考としながら議論を深め、生徒の多様な受入れのあり方について検討を重ねてきた。今般、その検討結果をまとめたので、ここに以下の通り報告する。

I 県立高等学校の現状等

1 県立高等学校の現状

(1) 中学校卒業生数等

本県における中学校卒業生数は、平成元年の22,833人を境に減少に転じて以来、平成21年3月は13,678人、平成28年3月は12,081人となっている。

このため、県立高等学校への入学者数も平成元年度以降減少傾向にあり、平成29年度の入学者数は、11,860人となっている。【付属資料p.16-17参照】

なお、平成27年度から平成29年度までの平均では、中学校卒業生12,033人のうち、177人（青森県、秋田県及び宮城県との間で締結している「県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定」（以下「隣接協定」という。）による進学者を含む。）が県外の公立・私立の高等学校（全日制課程）に進学しており、逆に県外から本県の公立高等学校への入学者は85人（隣接協定による入学者を含む。）となっている。

(2) 学校数

平成29年4月1日現在、全日制課程の県立高等学校は63校設置されている。

1校あたりの平均学級数は4.02であり、全日制課程の望ましい学校規模としている1学年4～6学級の学校は31校である。一方、岩手県の広大な県土面積や通学の利便性など本県の特殊性から、募集学級数が3学級以下の学校は27校（42.9%）となっており、全国（H28年度）の19.7%を大きく上回っている。

(3) 学科の構成

平成29年度における県立高等学校全日制課程の学科別募集学級数は、普通系学科146（普通科121、普通・理数科24、体育科1）、職業教育を中心とする専門学科77（農業科14、工業科36、商業科20、水産科3、家庭科4）、総合学科30の合計253学級となっている。

これに盛岡市立高等学校の普通科5、商業科2を含め、本県の公立高等学校全日制課程の募集学級数は260学級となっている。

なお、公立高等学校全日制課程における普通科系学科、専門学科及び総合学科の設置割合は、58：30：12となっており、全国（H29年度）の割合、69：24：7と比較すると、普通系学科の割合が低く、専門学科及び総合学科の割合が高い状況になっている。

2 入学者選抜について

(1) 入学者選抜の制度概要

本県の入学者選抜は、推薦入学者選抜（以下「推薦入試」という。）及び一般入学者選抜（以下「一般入試」という。）により行っている。また、欠員が定員の10%以上である学科（学系、コース）で二次募集を実施している。

推薦入試においては、岩手県内の中学校等の生徒に応募資格があり、各校各学科の定員の10%以内を募集定員としている。ただし、体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系については、50%以内、芸術学系については40%以内を募集

定員としている。

(2) 県立高等学校の募集定員・合格者等の状況

平成29年度の県立高等学校の募集定員・合格者数等の状況（一関第一高等学校の併設型入学決定者数を含む）は、全日制課程においては、募集定員10,120人に対して総受検者数9,660人、うち合格者数8,673人で過不足数▲1,447人となっている。定時制課程は、募集定員560人に対して総受検者数116人、うち合格者数104人で過不足数▲456人、通信制課程は、募集定員300人に対して総受検者数30人、うち合格者数23人で過不足数▲277人となっている。【付属資料p.18-21参照】

(3) 通学区域の状況

本県の通学区域は、昭和32年に制定した「岩手県立高等学校の通学区域に関する規則」によって定められており、現在は、全県を8つの通学区域としている。【付属資料p.23-25参照】

ただし、推薦入試の全学科と一般入試の専門学科及び総合学科については全県一区としており、通学区域の制限を受けるのは、一般入試の普通科※を履修しようとする生徒であるが、普通科においても、通学区域外からの生徒受入れは1学年定員の10%の範囲内で可能としている（学区外許容率）。

なお、平成27年度から、一般入試の志願者数が募集定員を超えない場合には、学区外許容率（第1学年定員の10%）を超えて入学を許可することができることとしている。

※ 普通科のうち、盛岡南高等学校（体育コース）、不来方高等学校（体育学系、芸術学系及び外国語学系）、花巻南高等学校（スポーツ健康科学学系及び国際科学学系）、西和賀高等学校（福祉・情報コース。ただし、平成30年度から同コースは募集停止。）は全県一区としている。

Ⅱ 県外からの入学志願者の受入れのあり方

1 本県における県外からの入学志願者の受入れ状況

(1) 県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定（隣接協定）による受入れ

一般入試においては、隣接協定を青森県、秋田県及び宮城県の3県と本県との間で、それぞれ締結しており、隣接協定に定める市町村等に住所を有する者が協定に定める本県の県立高等学校に志願することを認めている。

(2) 特別入学志願者取扱による受入れ

ア 保護者の転勤による一家転住等

隣接協定に基づかない県外から県立高等学校への出願については、原則として保護者の転勤による県内への一家転住等、特別の事由がある場合に認めている。

イ 全国的にも特色ある教育課程を有する県立高等学校への受入れ

種市高等学校海洋開発科は全国で唯一、潜水と土木の基礎的知識と技術を学ぶことのできる学科であり、県外からの志願を特別に認めている。なお、技術者の

高齢化による全国的な担い手不足を解消するため、種市高等学校、日本埋立浚渫協会東北支部、日本潜水協会、県教育委員会、洋野町教育委員会及び国土交通省東北地方整備局港湾空港部の産学官が平成29年3月に連携・協力協定を結び、潜水士等の担い手の確保・育成に取り組み始めたことから、今後の入学志願者の増加が期待される。

また、水沢農業高校農業科学科では、地域産業と関わる科目として「馬学」を開設していること等から県外からの志願を特別に認めている。【付属資料 p.22,40 参照】

ウ 人口減少対策のための地域振興による受入れ

中学校卒業生数の減少に伴い募集定員の確保が困難となっている高校が所在する地域では、県外及び県内他地域からの生徒の受入態勢を整える等の取組も見られる。

例えば葛巻町は、「くずまき山村留学生」として葛巻高等学校に入学を希望する生徒に、町内にある宿泊施設を学生寮として提供する等、生徒の生活環境を整えていることから、県教育委員会は町と事前に協議したうえで、平成27年度から県外からの志願を特別に認めている。【付属資料 p.22,40 参照】

2 県外からの入学志願者の受入れのあり方に関する意見

- (1) アンケート調査結果 [実施時期：平成29年8～9月、対象：学校長（公立中学校、義務教育学校及び県立高等学校の学校長）、PTA会長（公立中学校、義務教育学校及び県立高等学校のPTA会長）] 【付属資料p.28-34参照】

県立高等学校長は、県外からの入学志願について、受入れ環境や条件を整えば認めたいと回答する割合が多く、全体の8割程度を占めた。また、県外からの入学志願について、現在の「県外からの志願は保護者の転勤による県内への一家転住等、特別な事由がある場合に限る」としている原則を維持した方がよいとする回答は全体の1割程度に止まり、現在の原則を維持する必要はないと考える傾向が強い。

また、県外からの入学志願を認める場合、一定の条件設定が必要と回答する学校長の割合が中学校、高等学校ともに多く、全体の8割程度を占めており、特に県立高等学校長は、「学校と連携し、ふるさと振興に取り組む地域」、「学科の募集定員の一定割合」、「定員確保が困難と見込まれる学校・学科」等を条件としたいと考えている。一方で、PTA会長は中学校、高等学校ともに「条件は必要ない」と回答する割合が多く、全体の3割程度を占めている。

県外からの入学志願を認める場合の環境については、各調査対象者とも「安心して生活できる環境」が重要と考えていることが調査結果からうかがえる。

なお、県外からの入学志願を認める場合であっても、県内中学生の入学が優先されることを求める意見も多数あった。

(2) 市町村教育委員会（33市町村）との意見交換〔実施時期：平成29年7～8月〕

【付属資料p.35-39参照】

「県外からの入学志願者の受入れを認める」とする意見が多く、全体の6割（20市町村）を占めており、「県外からの入学志願者の受入れは認められない」とする意見は無かった。また、「受入れに反対ではないが様々な課題がある」等の意見もあった。

なお、「県外からの入学志願者の受入れを認める」場合であっても、県外からの入学志願者を受け入れることにより県内受検生に影響が生じてしまうことは好ましくなく、受入れに当たっては、欠員を生じている学校に限定する等、一定の条件を必要とするという意見が多かった。

3 全国における県外からの入学志願者の受入れ状況

(1) 県外からの入学志願者の受入れ（全国募集）に関する状況調査〔調査時期：平成29年10月、対象：47都道府県教育委員会〕

【付属資料p.50-55参照】

全国募集をしている高等学校のある都道府県は、本県を含め27道県となっており、その多くは人口減少等に伴って小規模化する学校の活性化や募集定員の確保等を目的として実施している。全国募集を実施している道県において、課題として捉えていることとしては、生徒が居住する場所の確保に関する事、生徒の健康管理や生活指導に関する事及び全国募集の周知に関する事等を挙げている。

なお、地元の高等学校の生徒減少に危機感を持った市町村が、主体的に地域や高等学校の魅力向上に取り組む事例も見られる。

全国募集を実施している高等学校のある27道県における受入れ条件を大別すると、次の3つに分類できる。

<全国募集の受入れ条件の分類>

- ア 全国募集をする学校を指定し、保護者に代わる身元引受人が学区内や県内にいる場合に限り受入れ可能とするもの（例：福島県、島根県 等）
- イ 全国募集をする学校と学科、または、特定の部活動を指定し、募集定員の一定割合を受入れ可能とするもの（例：栃木県、奈良県 等）
- ウ 県立高校の全学科で募集定員の一定割合を受入れ可能とするもの（例：秋田県、熊本県）

(2) 全国的主要事例

島根県海士町（隠岐諸島の中ノ島にある）の隠岐島前高等学校（全日制普通科）は、少子化により、平成20年度に全学年1学級となった。海士町ほか2町村では高校等と連携して島前高校魅力化プロジェクトを立ち上げて、地域を担う人材を育成する魅力ある教育環境作りに取り組み、島内からの進学者の増加を図ると同時に、島外からも積極的に意欲ある生徒の募集を行った。高等学校の魅力化、特色化の取組等により入学者は増加し、平成24年度からは1学級増の2学級募集となっており、平成29年度には25人（一家転住者を除く）が県外から入学している。

また、福島県只見町では、平成14年度から山村教育留学制度により町が身元引受人となって県外等から只見高等学校（全日制普通科）に入学する生徒を受け入れており、平成25年度以降、毎年度10人以上を山村教育留学生として受け入れている。

4 本県における県外からの入学志願者の受入れ検討の視点

本県の状況、学校長及びPTA会長に対するアンケート調査の結果、市町村の意見、全国状況等を踏まえると、一定の条件の下で県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する時期に来ている。

ただし、条件の設定に当たっては、次の視点で慎重に検討する必要がある。

(1) 県内生徒の学ぶ機会の確保

現在の制度においては、推薦入試では応募資格が県内の中学校等の生徒となっていること、一般入試では隣接協定を結ぶ地域以外の県外からの出願については特別の事由のある場合に限定している等から、県内中学生の受検の機会は確保されている状況にあり、今後もこの状況を維持していく必要がある。

(2) 高等学校存続を前提とした地域振興に取り組む自治体への配慮

入学者選抜の状況を見ると、推薦入試では、2倍を超える志願倍率となる高等学校がある一方で、募集定員を満たしていない、あるいは志願者がいない高等学校もある。（平均志願倍率：平成28年度0.95倍、平成29年度0.92倍）また、中山間地域を中心に一般入試でも、志願者が募集定員に満たない高等学校が多い状況にある。（平均志願倍率：平成28年度0.94倍、平成29年度0.92倍）

地域振興を進める上で、地元の高等学校の存続が前提と考える市町村も多いことから、県外からの入学志願者の受入れの検討に当たっては、このような自治体の事情にも配慮が必要である。

(3) 地域（自治体）等と連携した魅力ある学校・地域づくりと地域の将来を担う人材育成

再編計画においては、ふるさとを守る人材を本県の高校教育で育成するとしており、県教育委員会としても、産学官の連携による人材育成や、地域との連携による学校・学科の魅力づくり等、その実現に努めているが、地域によっては高等学校への入学者の確保がより一層困難な状況になること等が予想される。

全国には、少子化が進み中学校卒業予定者数が減少傾向にある中で、地元自治体と高等学校が連携して学校とその地域の魅力づくりを進めながら全国募集に取り組んだ結果、入学者の増加につながった事例もある。

本県においても、各自治体が人口減少対策として、岩手県ふるさと振興総合戦略（平成27年10月）に基づき、「ふるさと振興」に向けた様々な施策に取り組んでいる。県外からの入学志願者の受入れを行う場合の検討に当たっては、高等学校への入学者の増加はもとより、将来の本県の「ふるさと振興」を担い、地域の未来を切り開く人材の育成に資することも重視する必要がある。

そのため、地域への愛着・誇りを育むことのできる環境を整えることが求められ、学校と地域の連携・協働は極めて重要である。

5 本県における県外からの入学志願者の受入れのあり方についての提言

本検討会議としては、県立高等学校における県外からの入学志願者の受入れのあり方についての検討結果として、次のとおり提言する。

(1) 県外からの入学志願者の受入れの必要性について

ふるさと振興を推進する地域と人材育成を担う県立高等学校がお互いに支えながら、郷土を愛し、本県の将来を担う人材の育成に、より積極的に取り組まれることを願う見地から、地域と県立高等学校が連携し、交流人口の拡大を通して地元への愛着や誇りを持ち、地域の将来を担う人材の育成に積極的に取り組むため、入学できる生徒数やその割合に一定の制限を設ける等、県内の生徒の学ぶ機会の確保に配慮することを前提とした上で、「県外からの入学志願者の受入れ（全国募集）を認める」ことが適当である。

(2) 受入れの制限について

全国募集を導入している他県でも見られるように、県内の生徒の学ぶ機会を確保するため、「入学できる生徒数は募集定員の一定割合（または一定数）とする」ことが望ましい。また、定員充足状況を考慮することも必要である。

(3) 受入れ環境（生徒の生活面のサポート）について

受入れ環境としては、県内外の先行事例、特に一定の受入れ実績を上げている県の事例を参考にすると、生徒が安心して高校生活を送ることができるよう、住居や身元引受人等の生活面の環境を整えておくことが必要である。

例えば、生徒の住居（寮、下宿等）や身元引受人等について、学校と地元自治体等が連携し、受入れ可能な体制を整えること等が考えられる。

(4) 学校と地域等との連携・協働による教育活動を通じた魅力ある学校・地域づくりについて

県外からの入学志願者の受入れを、地域の将来を担う人材の育成につなげ、ひいては将来にわたって地域の活性化につなげるためには、学校と地域が連携・協働し、地域への愛着と誇りを育む教育活動を進める必要がある。具体的には、学校と地元自治体等が連携し、地域資源や人材を活用した取組を進めること等が考えられる。

そのため、県立高等学校と地元自治体は、他県の事例も参考にしつつ、魅力ある学校づくりを推進するための協働体制の構築に努めることが望ましい。

また、地域の産業界との連携も、より効果的な取組とする上で重要である。

Ⅲ 通学区域のあり方

1 通学区域の状況等

(1) 通学区域設定の趣旨

特定の高等学校への入学志願者の過度の集中を避け、高等学校教育の機会の均等を図り、生徒の就学、通学の適正を図るために定めている。

(2) 本県の学区外からの入学志願の状況

一般入試における学区外の生徒の入学志願について、過去3年間に学区外許容率（第1学年定員の10%）を超える出願があった高等学校は、平成27年度入試においては該当がなく、平成28年度入試においては不来方高等学校の1校、平成29年度入試においては盛岡第三高等学校、不来方高等学校、葛巻高等学校の3校であった。ただし、平成29年度入試の葛巻高等学校については、入学志願者数が募集定員を超えなかったことから、学区外許容率を超えて入学が可能となり、平成29年度入試においては実質的に2校であった。【付属資料p.26参照】

(3) 通学区域に係る法改正

通学区域制度については、地方分権と規制緩和を一層推進する観点から、平成13年度に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、各教育委員会が公立高等学校の通学区域を定める旨の規定が削除された。このことにより、通学区域の設定の判断については、高等学校を設置する各教育委員会に委ねられることとなった。なお、この改正に際しては、「公立高等学校の通学区域に係る規定の削除に関し、高等学校教育を適正に進めるため、受験競争を激化させたり、学校間格差を助長することがないように努めること」等、衆・参両議院文部科学委員会において附帯決議がなされた。

2 通学区域に関する意見

(1) アンケート調査結果〔実施時期：平成29年8～9月、対象：学校長（公立中学校、義務教育学校及び県立高等学校の学校長）、PTA会長（公立中学校、義務教育学校及び県立高等学校のPTA会長）〕 【付属資料p.33-34参照】

通学区域については、「現在の学区を維持した方がよい」、「全県一区とした方がよい」及び「地域の状況によって、学区や学区外の取扱いを見直した方がよい」の選択肢の中で、各調査対象者とも「地域の状況によって、通学区域の取扱いを見直した方がよい」とする回答が最も多く、全体で52%であった。具体的には、内陸部以外の高等学校の生徒募集に配慮が必要とする考えが多かった。

また、「現在の学区を維持した方がよい」とする回答は、全体で25%であり、「全県一区とした方がよい」とする回答は、全体で23%であった。

ただし、PTA会長については、高等学校の30%が「現在の学区を維持した方がよい」と回答していることに対し、中学校の32%が「全県一区とした方がよい」と回答しており、意見が分かれた。

なお、PTA会長に対する設問について、通学手段・通学時間に関しては、回答者の半数以上が「主にバス、列車で通学可能な範囲まで」と回答しており、調査対象者の多くは公共交通機関で通学できる範囲が適当と考えている。また、通学時間に関しても同様に、「片道1時間以内まで」とする割合が全体の6割近くを占めている。

(2) 市町村教育委員会（33市町村）との意見交換〔実施時期：平成29年7～8月〕

【付属資料p.35-39参照】

「現在の学区を維持した方がよい」とする意見が9件、「全県一区とした方がよい」とする意見は5件、その他の意見及び意見なしが19件であった。

「現在の学区を維持した方がよい」とした理由としては、全県一区とすると（学区を広げる場合も含む）、盛岡市内の高等学校等、特定の地域の学校に志願者が集中し、地元から生徒が流出してしまうことが危惧されること、現在の学区外からの入学志願者数の状況から、現行の学区の設定および10%の学区外許容率は概ね妥当であると考えられること等が挙げられている。

「全県一区とした方がよい」とした理由としては、生徒の自由な学校選択の機会を拡大するためとしている。

その他の意見として、「市町村により状況が異なることから、県内の全高等学校に共通した議論とすることは困難であり、議論する対象は、過疎地の小規模校等、特殊な状況におかれている学校に限るべきではないか」という意見もあった。

(3) 県民との意見交換（「今後の高等学校教育の基本的方向」の改訂に係る意見交換会等 平成26年5月～平成27年2月）

生徒の学校選択の機会拡大の観点から学区の撤廃を求める意見や、地域外への生徒の流出防止の観点等から学区の維持を望む意見等、様々な意見があった。

3 全国における通学区域の状況

県外からの入学志願者の受入れ（全国募集）に関する状況調査〔調査時期：平成29年10月、対象：47都道府県教育委員会〕
【付属資料p.56-61参照】

平成29年10月に行った全国調査によると、通学区域を設定しているのは22道府県、設定していないのは25都府県である。

通学区域を設定していない25都府県によると、通学区域を撤廃した理由としては、生徒の学校選択幅の拡大や高等学校の特色ある学校づくりを推進するためとしている。また、多くの県で通学区域を撤廃したことによる大きな影響はなかったと分析しているが、一方で、都市部の特定の高等学校に志願が集中する等の影響はあったと回答した県もある。

なお、本県と同様に広大な面積と多くの中山間地域を抱える北海道、長野県等においては、現在も通学区域を設定しており、東北6県においては、本県のほか、山形県及び福島県において設定している。

4 通学区域の設定による影響と課題等

通学区域の今後のあり方として、「通学区域を維持」、「通学区域を撤廃（全県一区）」、「一部地域に限り通学区域を拡大（緩和）」の3つの場合が考えられるが、それぞれの影響と課題等を整理すると次のとおりとなる。

(1) 通学区域を維持する場合について

通学区域は、特定の高等学校への入学志願者の過度の集中を避け、高等学校教育の機会の均等を図るために定めているが、生徒の自由な学校選択の機会を保障するため、学区外許容率を設定している。

現行の通学区域 8 学区及び学区外許容率10%は平成16年度入試から適用しているが、ほとんどの高等学校で学区外許容率10%を大きく下回る状況にあり、現行の制度下で生徒の自由な学校選択の機会について保障されていると概ね評価できる。

また、本県は他都府県と比べて広大な県土を有するという地理的条件もあり、適切な通学区域の設定は、生徒の就学・通学の適正を図るという通学区域の趣旨を踏まえると適当である。

なお、他県において全県一区を導入した理由として魅力ある学校づくりの促進があげられていることを踏まえれば、通学区域を維持する場合であっても、進学先として通学区域内の高等学校を積極的に選択できるよう、魅力ある学校づくりを一層推進することが必要である。

(2) 通学区域を撤廃（全県一区）する場合について

生徒の自由な学校選択の機会が保障され、生徒確保に向けて各高等学校の魅力づくりが進み、高等学校教育の質の一層の向上につながることも考えられる。

しかし、通学区域を撤廃している一部の県においては、特定の学校への志願者の集中や学校間格差の助長、地域からの生徒の流出等の状況が見られる。また、中学校の進路指導や中学生の進路選択に与える影響の大きさや、生徒や保護者の不安を招くおそれ等も懸念される。

通学区域を撤廃する場合には、その影響を見極めるなど、導入について十分に検討する必要がある。

(3) 一部地域に限り通学区域を拡大（緩和）する場合について

一部地域に限り通学区域を拡大（緩和）する方向性としては、通学区域の数を減らし区域を拡大する方法と、一部地域に限り「学区外許容率（第1学年定員の10%）」を緩和するという方法が考えられる。

区域の拡大は、現在に比べて通学可能な高等学校が大きく増える地域と、選択肢が広がらない地域を発生させることとなり、新たな不公平感・不均衡が生じる可能性もある。

学区外許容率の緩和については、緩和の対象となることが想定される多くの県立高等学校に現在欠員が生じており、制度上、既に学区外許容率を超えて入学を許可することができる状況になっている。

5 本県における通学区域のあり方検討の視点

本県の状況、学校長及びPTA会長に対するアンケート調査の結果、市町村の意見、全国の状況等を踏まえ、次の視点で検討する必要がある。

(1) 制度の変更に伴う各高等学校への入学志願の傾向の変化

様々な事情により、地元の高等学校への進学が唯一の選択肢となる生徒に対する配慮は必

要であり、制度の変更により、特定の高等学校への入学志願が集中し、地域の高等学校の存続が難しくなる事態が生じることとならないよう慎重に検討する必要がある。

(2) 学校間格差（学校の序列化）

各高等学校はそれぞれ学校の魅力づくりに取り組んでいるところであり、制度の見直し、こうした取組に悪影響を及ぼすこと（学校間格差の助長により、学校の魅力づくりに向けた取組の価値を失わせること）のないよう慎重に検討する必要がある。

(3) 中学生の多様な進路目標の実現に向けた配慮

中学生の進路目標の実現に向け、学区外許容率の制度も活用しつつ、地域の高等学校においても、生徒の進路希望にきめ細かく対応できるよう教育課程等を工夫することにより、生徒の進路目標の実現に向けた対応は十分可能であることも考慮する必要がある。

(4) 地理的条件

全国で通学区域を撤廃している都道府県は過半数の25都府県であるが、本県は広い県土を有していることや公共交通機関が限られており、通学が困難な地域もあること等、他県とは状況が大きく異なることから、制度を見直す場合には、このような地理的条件も考慮する必要がある。

6 本県における通学区域のあり方についての提言

本検討会議としては、本県における通学区域のあり方についての検討結果として、次のとおり提言する。

- 通学区域については、ふるさと振興の取組による一層の地域活性化と、本県の県立高等学校のさらなる魅力づくりを見守る必要があると考え、当面は維持することが望ましい。

各県立高等学校においては、中学生がそれぞれの区域の県立高等学校を進学先として積極的に選択でき、進路希望にきめ細かく対応した指導が受けられるよう、教育課程等を工夫する等、生徒の多様なニーズに対応した魅力ある学校づくりをより一層推進することに期待する。

なお、今後においても本県の実態に即した制度として運用していくため、社会情勢の変化の状況によっては、通学区域のあり方全体について再考する余地はあると思われる。

おわりに

少子高齢化の進行に伴う人口減少社会の到来や、高度情報化・グローバル化社会の進展、科学技術の進歩といった変化が激しく、先が見通せないといわれるこれからの時代を担っていくことになる子どもたちに対しては、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体を備え調和のとれた人間形成を行う教育や、変容する社会でしっかりと生きていく意欲や主体性を育む教育がますます求められている。

本検討会議では、その検討の過程において、公立中学校長、義務教育学校長、県立高等学校長、公立中学校のPTA会長、義務教育学校のPTA会長、県立高等学校のPTA会長、市町村教育委員会教育長等、多くの方々から貴重な意見をいただきながら、社会の変化に対応した県立高等学校における県外からの入学志願者の受入れや通学区域のあり方について検討を重ね、今後の望ましい方向性をまとめた。

県教育委員会においては、本報告書の趣旨を踏まえ、可能な限り早期に生徒の多様な受入れ制度を構築するとともに、地域（自治体）等と連携した学校の魅力づくりを進め、本県の高校教育全体の質の向上と、全国に本県の魅力を情報発信されることを期待し、報告の結びとする。

付 属 資 料

(付属資料)

目 次

I 委員名簿、検討経過等

- 1 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議設置要綱 13
- 2 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議委員名簿 14
- 3 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議開催経過 15

II 関係資料

1 全体

- (1) 岩手県における中学校卒業者数及び高校入学者数の推移 …… 16
- (2) 岩手県立高等学校入学者選抜の概況 …… 18
- (3) 岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表 (H27年度～H29年度) …… 19
- (4) 県外から県内への志願の取扱いについて …… 22
- (5) 通学区域(学区)について …… 23
- (6) 学区と高校配置に関する地区割、ブロックの県立高等学校の配置 …… 24
- (7) 普通科における一般入試学区外志願者数 …… 26
- (8) ブロック間交流【3年間(H26・27・28)の平均】 …… 27
- (9) 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート …… 28
- (10) 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する市町村教育委員会との意見交換における主な意見 …… 35

2 県外からの志願者の受入れについて

- (1) 県外からの生徒の受入れを特別に認めている高校の入学者の状況 …… 40
- (2) 県内中学生の県外高校への入学状況及び県内私立高校への県外からの入学状況 …… 41
- (3) 高校規模別の入学者及び部の設置等の状況 …… 42
- (4) 県外生徒の受入れに関する全国の状況 …… 50
- (5) 全国募集を実施している高校・学科等の例 …… 56

3 通学区域のあり方について

- (1) 通学区域に関する全国の状況 …… 56
- (2) 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の経緯等 …… 57
- (3) 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の影響 …… 61

I 委員名簿、検討経過等

1 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議設置要綱

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議

設置要綱

(設置)

第1 新たな県立高等学校再編計画の推進に当たり、ふるさと振興の観点等から学校の魅力づくりを推進する地域の取組を踏まえ、生徒の多様な受入れのあり方について検討するため、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議(以下「会議」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2 会議は、次の事項について検討を行い、岩手県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に報告する。

- (1) 県外からの入学志願者の受入れのあり方に関すること
- (2) 現状と課題を踏まえた通学区域のあり方に関すること
- (3) その他定員を充足するためのあり方に関すること

(組織等)

第3 会議は、委員15名以内をもって組織する。

2 会議の委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 教育関係団体の役職員
- (3) 市町村教育長
- (4) 産業関係者
- (5) その他委員として適当と認められる者

(任期)

第4 委員の任期は、第2に掲げる検討が終了するまでとする。

2 欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5 会議に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第6 会議は、必要に応じて委員長が招集する。

2 委員長は、必要があるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第7 会議の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校調整課において処理する。

(補則)

第8 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年4月24日から施行する。

2 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議委員名簿

(50 音順)

氏 名	所 属 ・ 職 名 等	備 考
阿 部 徹	岩手県立盛岡工業高等学校長	
五十嵐 のぶ代	岩手県P T A連合会 顧問	
伊 藤 晃 二	宮古市教育委員会 教育長	
金 田 一 文 紀	岩手県教職員組合 書記長	
久 慈 竜 也	株式会社久慈設計 代表取締役社長 岩手県産業教育振興会 理事	
佐々木 秀市	岩手県高等学校教職員組合 書記長	
高 橋 清 之	前 盛岡市立下橋中学校長	
田 代 高 章	岩手大学教育学部 教授	委員長
千 葉 祐 悦	金ヶ崎町教育委員会 教育長	
土 川 敦	前 岩手県立一関第一高等学校長	副委員長
渡 辺 正 和	岩手県高等学校P T A連合会 会長	

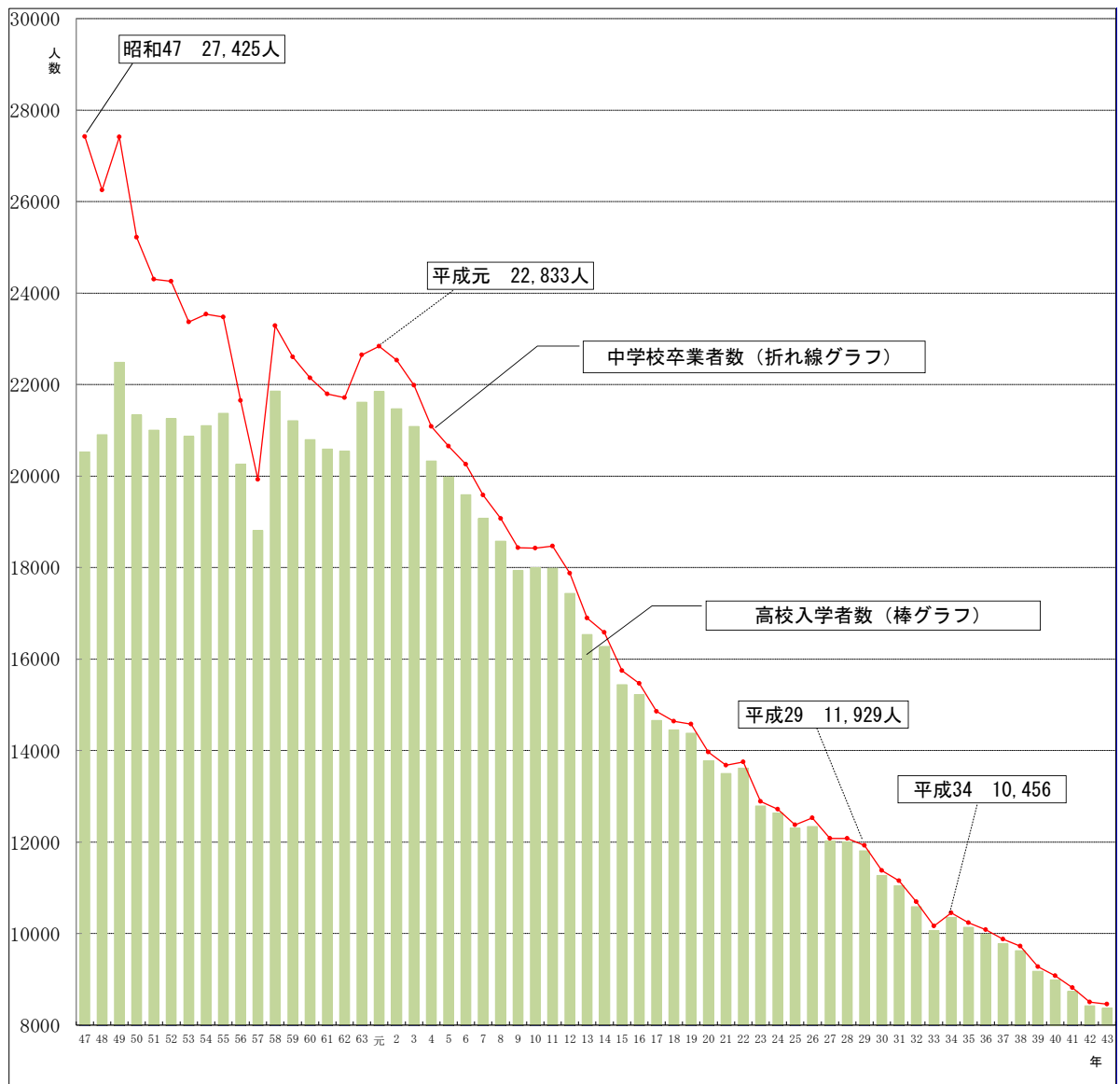
3 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議開催経過

回	時 期	項 目	検 討 内 容
第1回	平成29年 6月9日	① 委員長、副委員長の選任 ② 県立高等学校の現状等 ③ 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方における論点	① 田代高章委員長、土川 敦副委員長を互選 ② 県立高校の現状等に関する意見交換 ③ 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方の論点について整理
第2回	平成29年 11月8日	① 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート結果 ② 県外からの志願者の受入れのあり方	① 県内全ての公立中学校、義務教育学校長、県立高等学校長及びPTA会長を対象としたアンケートの結果について意見交換 ② 県外からの志願者の受入れの諸条件等について議論
第3回	平成30年 2月16日	① 県外からの志願者の受入れのあり方 ② 通学区域のあり方	① 県外からの志願者の受入れの諸条件等について議論 ② 通学区域の見直しの必要性等について議論
第4回	平成30年 7月12日	県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方(まとめ)	報告書(案)の検討
報告書提出	平成30年 7月以降	県教育委員会教育長へ報告書提出	—

II 関係資料

1 全体

(1) 岩手県における中学校卒業生数及び高校入学者数の推移



各年ごとのデータ

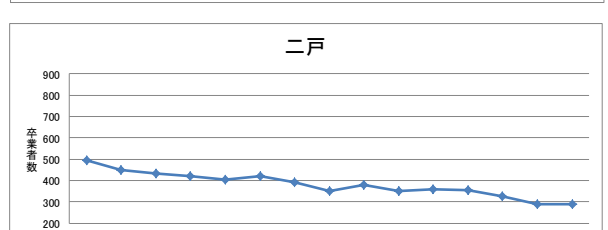
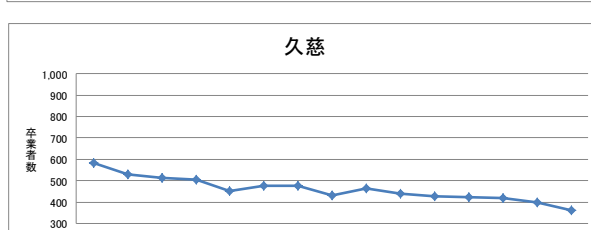
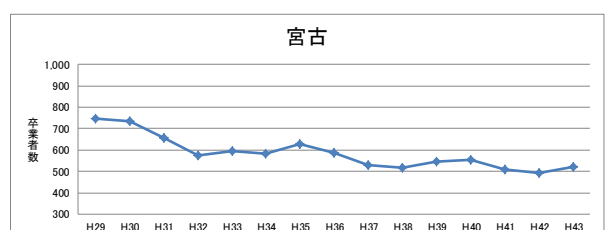
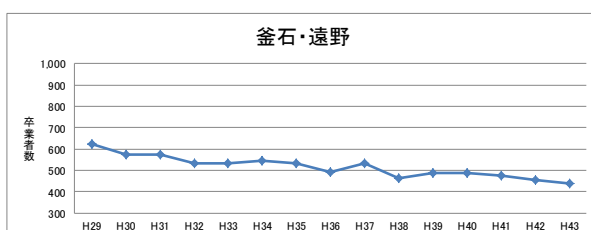
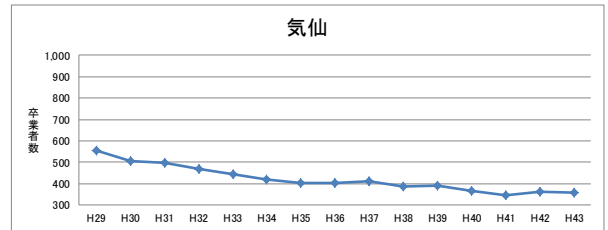
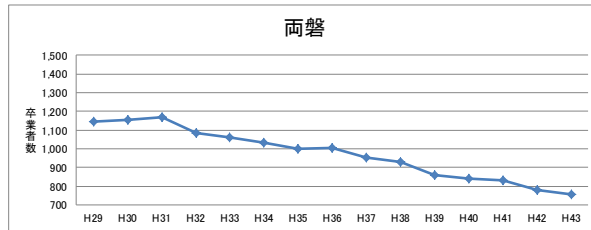
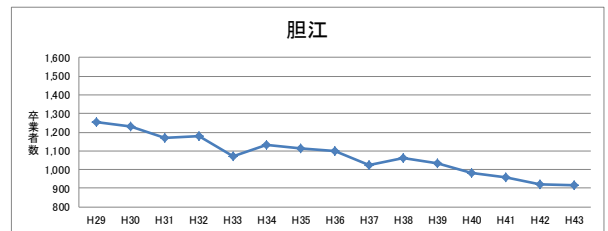
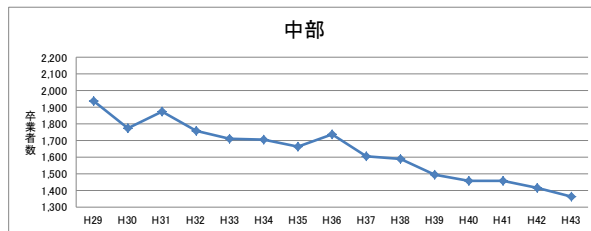
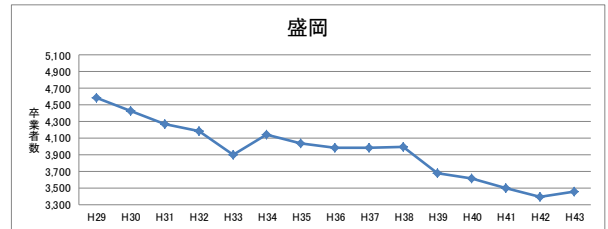
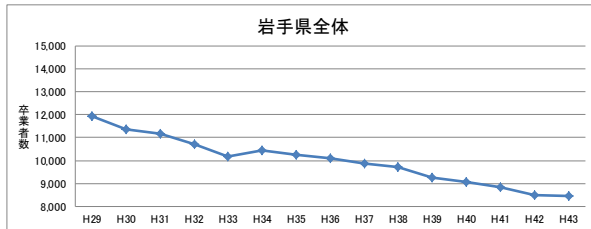
年 3月	昭和47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
中学校卒業生数	27,425	26,250	27,412	25,216	24,304	24,254	23,370	23,542	23,478	21,647	19,923	23,289	22,605	22,148	21,797
進学率	74.9%	79.6%	82.0%	84.6%	86.4%	87.6%	89.3%	89.6%	91.0%	93.6%	94.4%	93.9%	93.8%	93.9%	94.5%
高校入学者数	20,529	20,904	22,486	21,339	21,004	21,257	20,867	21,101	21,371	20,262	18,812	21,860	21,208	20,801	20,590
年 3月	62	63	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
中学校卒業生数	21,715	22,648	22,833	22,531	21,985	21,085	20,657	20,256	19,583	19,074	18,435	18,425	18,468	17,874	16,899
進学率	94.6%	95.4%	95.7%	95.3%	95.9%	96.4%	96.7%	96.7%	97.4%	97.4%	97.3%	97.7%	97.4%	97.5%	97.9%
高校入学者数	20,543	21,617	21,847	21,475	21,084	20,329	19,983	19,595	19,068	18,574	17,941	17,993	17,987	17,432	16,541
年 3月	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
中学校卒業生数	16,585	15,748	15,468	14,857	14,640	14,576	13,970	13,678	13,748	12,885	12,714	12,377	12,530	12,083	12,081
進学率	98.2%	98.0%	98.4%	98.7%	98.7%	98.7%	98.7%	98.8%	98.9%	99.3%	99.4%	99.4%	99.4%	99.5%	99.3%
高校入学者数	16,279	15,440	15,223	14,661	14,449	14,383	13,782	13,507	13,597	12,792	12,638	12,301	12,449	12,024	11,999
年 3月	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
中学校卒業生数	11,929	11,380	11,157	10,698	10,167	10,456	10,241	10,087	9,879	9,721	9,273	9,080	8,820	8,504	8,456
進学率	99.4%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%
高校入学者数	11,860	11,266	11,045	10,591	10,065	10,351	10,139	9,986	9,780	9,624	9,180	8,989	8,732	8,419	8,371

注) 中学校卒業生数及び高校入学者数

〔中学校卒業生数〕・昭和47年から平成29年までは実績値、平成30年以降は平成29年5月1日現在の在籍生徒数等からの推定値です。
 〔高校入学者数〕・昭和47年から平成29年までは実績値、平成30年以降は進学率を99.0%に固定し、高校入学者数を計算したものです。

ブロック別中学校卒業予定者数の推移（各年3月末、平成30年以降は推計値）

ブロック	29年3月	30年3月	31年3月	32年3月	33年3月	34年3月	35年3月	36年3月	37年3月	38年3月	39年3月	40年3月	41年3月	42年3月	43年3月
盛岡	4,585	4,424 -161 -161	4,273 -151 -312	4,179 -94 -406	3,901 -278 -684	4,144 243 -441	4,037 -107 -548	3,981 -56 -604	3,982 1 -603	3,988 6 -597	3,678 -310 -907	3,616 -62 -969	3,500 -116 -1,085	3,395 -105 -1,190	3,452 57 -1,133
岩手中部	1,940	1,772 -168 -168	1,875 103 -65	1,757 -118 -183	1,712 -45 -228	1,707 -5 -233	1,665 -42 -275	1,739 74 -201	1,605 -134 -335	1,589 -16 -351	1,494 -95 -446	1,456 -38 -484	1,456 0 -484	1,414 -42 -526	1,363 -51 -577
胆江	1,254	1,231 -23 -23	1,168 -63 -86	1,178 10 -76	1,072 -106 -182	1,133 61 -121	1,111 -22 -143	1,098 -13 -156	1,022 -76 -232	1,063 41 -191	1,033 -30 -221	982 -51 -272	956 -26 -298	920 -36 -334	914 -6 -340
両磐	1,144	1,156 12 12	1,167 11 23	1,086 -81 -58	1,059 -27 -85	1,034 -25 -110	1,001 -33 -143	1,004 3 -140	951 -53 -193	929 -22 -215	860 -69 -284	841 -19 -303	832 -9 -312	781 -51 -363	755 -26 -389
気仙	556	505 -51 -51	498 -7 -58	467 -31 -89	442 -25 -114	418 -24 -138	402 -16 -154	403 1 -153	412 9 -144	387 -25 -169	391 4 -165	366 -25 -190	346 -20 -210	361 15 -195	359 -2 -197
釜石 遠野	624	576 -48 -48	576 0 -48	531 -45 -93	531 0 -93	544 13 -80	531 -13 -93	493 -38 -131	535 42 -89	462 -73 -162	486 24 -138	486 0 -138	477 -9 -147	455 -22 -169	440 -15 -184
宮古	749	736 -13 -13	656 -80 -93	574 -82 -175	593 19 -156	582 -11 -167	627 45 -122	586 -41 -163	530 -56 -219	516 -14 -233	547 31 -202	556 9 -193	509 -47 -240	492 -17 -257	520 28 -229
久慈	582	529 -53 -53	512 -17 -70	506 -6 -76	453 -53 -129	474 21 -108	474 0 -108	431 -43 -151	463 32 -119	438 -25 -144	426 -12 -156	421 -5 -161	417 -4 -165	397 -20 -185	363 -34 -219
二戸	495	451 -44 -44	432 -19 -63	420 -12 -75	404 -16 -91	420 16 -75	393 -27 -102	352 -41 -143	379 27 -116	349 -30 -146	358 9 -137	356 -2 -139	327 -29 -168	289 -38 -206	290 1 -205
全県 対前年比	11,929	11,380 -549 -549	11,157 -223 -772	10,698 -459 -1,231	10,167 -531 -1,762	10,456 289 -1,473	10,241 -215 -1,688	10,087 -154 -1,842	9,879 -208 -2,050	9,721 -158 -2,208	9,273 -448 -2,666	9,080 -193 -2,849	8,820 -260 -3,109	8,504 -316 -3,425	8,456 -48 -3,473



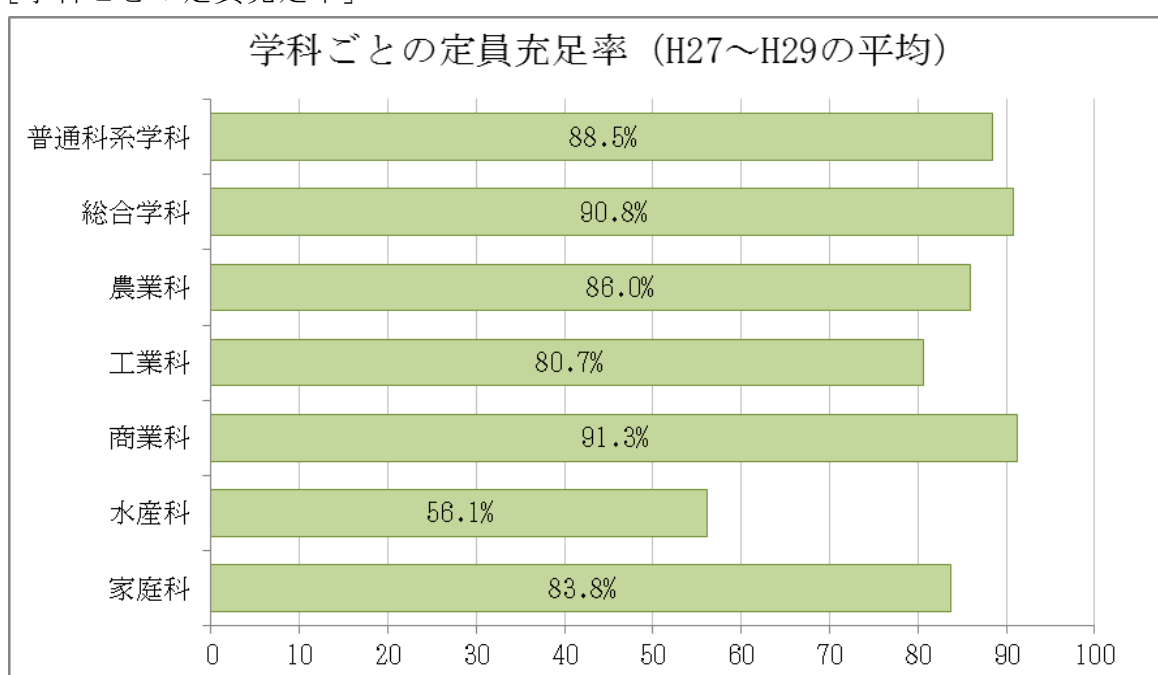
※ グラフの卒業生数（縦軸）の数値は、地区によって異なります。

(2) 岩手県立高等学校入学者選抜の概況

[全日制課程]

	H27	H28	H29
募集定員	10,200	10,200	10,120
総受検者数	9,722	9,952	9,660
最終合格者数	9,013	8,989	8,673
充足率(%)	88.4	88.1	85.7

[学科ごとの定員充足率]



[定時制課程]

	H27	H28	H29
募集定員	560	560	560
総受検者数	117	125	116
最終合格者数	112	117	104
充足率(%)	20.0	20.9	18.6

(3) 岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表 (H27年度～H29年度)

平成27年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
盛岡第一	普通	普通・理数	280	284	4	355
盛岡第二	普通	普通	200	204	4	265
盛岡第三	普通	普通	280	284	4	354
盛岡第四	普通	普通	280	280	0	357
盛岡北	普通	普通	240	243	3	251
盛岡南	普通	普通	160	160	0	182
	普通	体育コース	40	39	▲1	44
	体育	体育	40	41	▲1	46
不来方	普通	人文・理数	160	156	▲4	160
	普通	芸術	40	35	▲5	36
	普通	外国語	40	40	0	43
	普通	体育	40	41	▲1	49
盛岡農業	農業	植物科学	40	38	▲2	29
	農業	動物科学	40	38	▲2	36
	農業	食品科学	40	42	▲2	60
	農業	人間科学	40	42	▲2	44
	農業	環境科学	40	40	0	40
盛岡工業	工業	機械	40	40	0	49
	工業	電気	40	41	▲1	49
	工業	電子情報	40	40	0	45
	工業	電子機械	40	40	0	43
	工業	工業化学	40	41	▲1	35
	工業	土木	40	40	0	54
	工業	建築・デザイン	40	40	0	55
盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	▲2	95
	商業	会計ビジネス	80	84	▲4	116
	商業	情報ビジネス	80	82	▲2	105
沼宮内	普通	普通	80	42	▲38	43
葛巻	普通	普通	80	48	▲32	48
平舘	普通	普通	80	74	▲6	74
	家庭	家政科学	40	27	▲13	27
雫石	普通	普通	80	49	▲31	51
紫波総合	総合	総合	200	171	▲29	175
花巻北	普通	普通	240	245	▲5	265
花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	123	▲3	152
	普通	スポーツ健康科学	40	40	0	41
	普通	国際科学	40	39	▲1	20
花巻農業	農業	生物科学	40	41	▲1	47
	農業	環境科学	40	42	▲2	48
	農業	食農科学	40	41	▲1	42
花北青雲	工業	情報工学	40	35	▲5	31
	商業	ビジネス情報	80	84	▲4	94
	家庭	総合生活	40	42	▲2	45
大迫	普通	普通	40	32	▲8	33
黒沢尻北	普通	普通	240	240	0	277
北上翔南	総合	総合	240	241	▲1	251
黒沢尻工業	工業	機械	40	40	0	42
	工業	電気	40	28	▲12	28
	工業	電子	40	33	▲7	32
	工業	電子機械	40	31	▲9	31
	工業	土木	40	37	▲3	39
	工業	材料技術	40	22	▲18	20
西和賀	普通	普通	40	15	▲25	15
	普通	福祉・情報コース	40	10	▲30	11
水沢	普通	普通・理数	240	245	▲5	265
水沢農業	農業	農業科学	40	31	▲9	31
	農業	環境工学	40	15	▲25	15
	農業	生活科学	40	32	▲8	32
水沢工業	工業	機械	40	40	0	42
	工業	電気	40	33	▲7	33
	工業	設備システム	40	40	0	45
	工業	インテリア	40	39	▲1	36
水沢商業	商業	商業	40	37	▲3	37
	商業	会計ビジネス	40	40	0	40
	商業	情報システム	40	25	▲15	25
前沢	普通	普通	80	47	▲33	48
金ヶ崎	普通	普通	120	115	▲5	129
岩谷堂	総合	総合	200	200	0	205
一関第一	普通	普通・理数	240	232	▲8	233
一関第二	総合	総合	240	242	▲2	293
一関工業	工業	電気	40	37	▲3	39
	工業	電子	40	32	▲8	30
	工業	電子機械	40	40	0	44
	工業	土木	40	30	▲10	32
花泉	普通	普通	40	37	▲3	37
大東	普通	普通	120	93	▲27	93
	商業	情報ビジネス	40	34	▲6	35
千厩	普通	普通	120	109	▲11	109
	農業	生産技術	40	35	▲5	36
	工業	産業技術	40	32	▲8	32

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
高田	普通	普通	160	149	▲11	149
	水産	海洋システム	40	15	▲25	15
大船渡	普通	普通	200	200	0	200
大船渡東	農業	農芸科学	40	20	▲20	21
	工業	機械	40	41	▲1	41
	工業	電気電子	40	23	▲17	23
	商業	情報処理	40	23	▲17	23
	家庭	食物文化	40	39	▲1	39
住田	普通	普通	40	40	0	41
釜石	普通	普通・理数	200	173	▲27	174
釜石商工	工業	機械・電子機械	80	47	▲33	51
	工業	電気電子	40	9	▲31	10
	商業	総合情報	80	44	▲36	46
遠野	普通	普通	160	142	▲18	142
遠野緑峰	農業	生産技術	40	40	0	40
	商業	情報処理	40	18	▲22	18
大槌	普通	普通	120	81	▲39	83
山田	普通	普通	80	50	▲30	50
宮古	普通	普通	240	220	▲20	221
宮古北	普通	普通	40	18	▲22	18
宮古工業	工業	機械	40	35	▲5	35
	工業	電気電子	40	12	▲28	12
	工業	建築設備	40	20	▲20	20
宮古商業	商業	商業	40	40	0	45
	商業	会計	40	36	▲4	30
	商業	流通経済	40	40	0	39
	商業	情報	40	40	0	45
宮古水産	水産	海洋技術	40	24	▲16	24
	水産	食品家政	40	24	▲16	24
	家庭	食物	40	27	▲13	27
岩泉	普通	普通	80	59	▲21	59
久慈	普通	普通	200	182	▲18	195
久慈東	総合	総合	200	195	▲5	196
久慈工業	工業	電子機械	40	16	▲24	16
	工業	建設環境	40	34	▲6	35
種市	普通	普通	80	52	▲28	53
	工業	海洋開発	40	31	▲9	33
大野	普通	普通	80	57	▲23	57
軽米	普通	普通	80	58	▲22	58
伊保内	普通	普通	80	37	▲43	37
福岡	普通	普通	200	171	▲29	171
福岡工業	工業	機械システム	40	36	▲4	36
	工業	電気情報システム	40	25	▲15	25
一戸	総合	総合	120	69	▲51	70

10,200 9,013 ▲1,187 9,722

<定時制>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
杜陵	普通	1・2部	120	36	▲84	39
	普通	3部	40	3	▲37	3
杜陵奥州	普通	昼間部	40	22	▲18	23
	普通	夜間部	40	2	▲38	2
盛岡工業	工業	工業	40	6	▲34	5
一関第一	普通	普通	40	1	▲39	1
大船渡	普通	普通	40	5	▲35	5
釜石	普通	普通	40	12	▲28	12
宮古	普通	普通	40	6	▲34	6
久慈長内	普通	昼間部	40	14	▲26	17
	普通	夜間部	40	3	▲37	2
福岡	普通	普通	40	2	▲38	2
			560	112	▲448	117

<通信制>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
杜陵	普通	普通	300	19	▲281	24
			300	19	▲281	24

※参考<市立>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	37	▲2	41
	普通	普通	160	164	▲4	207
	商業	商業	80	84	▲4	130
			275	285	▲10	378

平成28年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
盛岡第一	普通	普通・理数	280	282	2	370
盛岡第二	普通	普通	200	200	0	207
盛岡第三	普通	普通	280	285	5	425
盛岡第四	普通	普通	280	283	3	349
盛岡北	普通	普通	240	243	3	345
盛岡南	普通	普通	160	164	4	206
	普通	体育コース	40	42	2	58
	体育	体育	40	42	2	54
不来方	普通	人文・理数	160	163	3	226
	普通	芸術	40	40	0	50
	普通	外国語	40	41	1	56
	普通	体育	40	40	0	63
盛岡農業	農業	植物科学	40	40	0	38
	農業	動物科学	40	42	2	51
	農業	食品科学	40	42	2	57
	農業	人間科学	40	42	2	48
	農業	環境科学	40	40	0	36
盛岡工業	工業	機械	40	40	0	45
	工業	電気	40	40	0	42
	工業	電子情報	40	40	0	48
	工業	電子機械	40	38	▲2	38
	工業	工業化学	40	38	▲2	30
	工業	土木	40	40	0	46
	工業	建築・デザイン	40	40	0	53
盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	80	0	141
	商業	会計ビジネス	80	80	0	101
	商業	情報ビジネス	80	81	1	93
沼宮内	普通	普通	80	29	▲51	29
葛巻	普通	普通	80	41	▲39	41
平舘	普通	普通	80	58	▲22	59
	家庭	家政科学	40	26	▲14	26
雫石	普通	普通	80	39	▲41	42
紫波総合	総合	総合	200	166	▲34	166
花巻北	普通	普通	240	235	▲5	239
花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	123	3	142
	普通	スポーツ健康科学	40	42	2	57
	普通	国際科学	40	40	0	37
花巻農業	農業	生物科学	40	39	▲1	39
	農業	環境科学	40	31	▲9	33
	農業	食農科学	40	41	1	42
花北青雲	工業	情報工学	40	41	1	43
	商業	ビジネス情報	80	84	4	92
	家庭	総合生活	40	42	2	38
大迫	普通	普通	40	21	▲19	21
黒沢尻北	普通	普通	240	240	0	251
北上翔南	総合	総合	240	240	0	242
黒沢尻工業	工業	機械	40	40	0	52
	工業	電気	40	40	0	41
	工業	電子	40	38	▲2	35
	工業	電子機械	40	40	0	42
	工業	土木	40	40	0	46
	工業	材料技術	40	39	▲1	43
西和賀	普通	普通	40	32	▲8	35
	福祉	情報コース	40	12	▲28	11
水沢	普通	普通・理数	240	244	4	255
水沢農業	農業	農業科学	40	30	▲10	30
	農業	環境工学	40	16	▲24	18
	農業	生活科学	40	22	▲18	22
水沢工業	工業	機械	40	40	0	42
	工業	電気	40	30	▲10	28
	工業	設備システム	40	26	▲14	29
	工業	インテリア	40	37	▲3	37
水沢商業	商業	商業	40	33	▲7	31
	商業	会計ビジネス	40	40	0	45
	商業	情報システム	40	42	2	48
前沢	普通	普通	80	42	▲38	44
金ヶ崎	普通	普通	120	97	▲23	101
岩谷堂	総合	総合	200	198	▲2	199
一関第一	普通	普通・理数	240	245	5	247
一関第二	総合	総合	240	240	0	276
一関工業	工業	電気	40	41	1	43
	工業	電子	40	40	0	41
	工業	電子機械	40	41	1	47
	工業	土木	40	40	0	51
花泉	普通	普通	40	41	1	47
大東	普通	普通	120	99	▲21	99
	商業	情報ビジネス	40	35	▲5	35
千厩	普通	普通	120	117	▲3	120
	農業	生産技術	40	38	▲2	38
	工業	産業技術	40	31	▲9	31

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
高田	普通	普通	160	164	4	167
	水産	海洋システム	40	15	▲25	18
大船渡	普通	普通	200	175	▲25	175
大船渡東	農業	農芸科学	40	14	▲26	15
	工業	機械	40	30	▲10	31
	工業	電気電子	40	15	▲25	15
	商業	情報処理	40	37	▲3	37
	家庭	食物文化	40	24	▲16	26
住田	普通	普通	40	33	▲7	34
釜石	普通	普通・理数	200	185	▲15	187
釜石商工	工業	機械・電子機械	80	57	▲23	57
	工業	電気電子	40	10	▲30	11
	商業	総合情報	80	71	▲9	71
遠野	普通	普通	160	130	▲30	130
遠野緑峰	農業	生産技術	40	35	▲5	35
	商業	情報処理	40	18	▲22	19
大槌	普通	普通	120	71	▲49	74
山田	普通	普通	80	34	▲46	35
宮古	普通	普通	240	208	▲32	208
宮古北	普通	普通	40	27	▲13	31
宮古工業	工業	機械	40	21	▲19	23
	工業	電気電子	40	18	▲22	18
	工業	建築設備	40	23	▲17	28
宮古商業	商業	商業	40	40	0	46
	商業	会計	40	34	▲6	31
	商業	流通経済	40	40	0	39
	商業	情報	40	40	0	38
宮古水産	水産	海洋技術	40	33	▲7	43
	水産	食品家政	40	34	▲6	38
	家庭	食物	40	40	0	43
岩泉	普通	普通	80	50	▲30	50
久慈	普通	普通	200	181	▲19	183
久慈東	総合	総合	200	192	▲8	192
久慈工業	工業	電子機械	40	9	▲31	9
	工業	建設環境	40	30	▲10	30
種市	普通	普通	80	46	▲34	46
	工業	海洋開発	40	34	▲6	34
大野	普通	普通	80	44	▲36	44
軽米	普通	普通	80	48	▲32	48
伊保内	普通	普通	80	28	▲52	28
福岡	普通	普通	200	194	▲6	196
福岡工業	工業	機械システム	40	38	▲2	38
	工業	電気情報システム	40	35	▲5	35
一戸	総合	総合	120	72	▲48	72

10,200 8,989 ▲1,211 9,952

<定時制>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
杜陵	普通	1・2部	120	38	▲82	41
	普通	3部	40	4	▲36	4
杜陵奥州	普通	昼間部	40	28	▲12	30
	普通	夜間部	40	1	▲39	1
盛岡工業	工業	工業	40	4	▲36	3
一関第一	普通	普通	40	4	▲36	4
大船渡	普通	普通	40	7	▲33	7
釜石	普通	普通	40	10	▲30	12
宮古	普通	普通	40	4	▲36	5
久慈長内	普通	昼間部	40	12	▲28	13
	普通	夜間部	40	1	▲39	1
福岡	普通	普通	40	4	▲36	4
			560	117	▲443	125

<通信制>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
杜陵	普通	普通	300	26	▲274	32
			300	26	▲274	32

※参考<市立>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	35	0	38
	普通	普通	160	164	4	207
	商業	商業	80	84	4	99
			275	283	8	344

平成29年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	282	2	330
盛岡第二	普通	普通	200	203	3	217
盛岡第三	普通	普通	280	286	6	419
盛岡第四	普通	普通	280	287	7	365
盛岡北	普通	普通	240	241	1	294
盛岡南	普通	普通	160	164	4	221
	普通	体育コース	40	42	2	66
	体育	体育	40	42	2	60
不来方	普通	人文・理数	160	161	1	237
	普通	芸術	40	40	0	62
	普通	外国語	40	40	0	58
	普通	体育	40	40	0	53
盛岡農業	農業	動物科学	40	42	2	62
	農業	植物科学	40	40	0	43
	農業	食品科学	40	42	2	48
	農業	人間科学	40	40	0	37
	農業	環境科学	40	42	2	51
盛岡工業	工業	機械	40	40	0	54
	工業	電気	40	40	0	49
	工業	電子情報	40	40	0	53
	工業	電子機械	40	40	0	52
	工業	工業化学	40	40	0	43
	工業	土木	40	40	0	52
	工業	建築・デザイン	40	40	0	55
盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	109
	商業	会計ビジネス	80	82	2	101
	商業	情報ビジネス	80	81	1	90
沼宮内	普通	普通	80	42	▲38	42
葛巻	普通	普通	80	51	▲29	51
平舘	普通	普通	80	54	▲26	54
	家庭	家政科学	40	17	▲23	17
雫石	普通	普通	80	25	▲55	25
紫波総合	総合	総合	200	177	▲23	184
花巻北	普通	普通	240	245	5	262
花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	123	3	140
	普通	スポーツ健康科学	40	38	▲2	34
	普通	国際科学	40	40	0	31
花巻農業	農業	生物科学	40	40	0	41
	農業	環境科学	40	40	0	49
	農業	食農科学	40	41	1	45
花北青雲	工業	情報工学	40	42	2	55
	商業	ビジネス情報	80	84	4	107
	家庭	総合生活	40	41	1	57
大迫	普通	普通	40	22	▲18	22
黒沢尻北	普通	普通	240	241	1	290
北上翔南	総合	総合	240	212	▲28	212
黒沢尻工業	工業	機械	40	40	0	44
	工業	電気	40	40	0	46
	工業	電子	40	40	0	48
	工業	電子機械	40	40	0	39
	工業	土木	40	40	0	54
	工業	材料技術	40	38	▲2	40
西和賀	普通	普通	40	20	▲20	24
	普通	福祉・情報コース	40	9	▲31	8
水沢	普通・理数	普通・理数	240	238	▲2	239
水沢農業	農業	農業科学	40	28	▲12	30
	農業	環境工学	40	14	▲26	14
	農業	生活科学	40	17	▲23	17
水沢工業	工業	機械	40	35	▲5	35
	工業	電気	40	26	▲14	27
	工業	設備システム	40	35	▲5	36
	工業	インテリア	40	38	▲2	39
水沢商業	商業	商業	40	41	1	45
	商業	会計ビジネス	40	40	0	36
	商業	情報システム	40	40	0	40
前沢	普通	普通	80	41	▲39	42
金ヶ崎	普通	普通	120	91	▲29	92
岩谷堂	総合	総合	200	148	▲52	148
一関第一	普通・理数	普通・理数	240	242	2	269
一関第二	総合	総合	240	217	▲23	224
一関工業	工業	電気	40	27	▲13	28
	工業	電子	40	31	▲9	32
	工業	電子機械	40	33	▲7	36
	工業	土木	40	29	▲11	37
花泉	普通	普通	40	35	▲5	35
大東	普通	普通	120	78	▲42	78
	商業	情報ビジネス	40	27	▲13	28
千厩	普通	普通	120	101	▲19	101
	農業	生産技術	40	39	▲1	40
	工業	産業技術	40	33	▲7	33

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
高田	普通	普通	160	131	▲29	134
	水産	海洋システム	40	12	▲28	12
大船渡	普通	普通	200	200	0	200
大船渡東	農業	農芸科学	40	21	▲19	14
	工業	機械	40	16	▲24	17
	工業	電気電子	40	18	▲22	18
	商業	情報処理	40	26	▲14	24
	家庭	食物文化	40	40	0	48
住田	普通	普通	40	33	▲7	33
釜石	普通・理数	普通・理数	200	160	▲40	160
釜石商工	工業	機械・電子機械	80	51	▲29	52
	工業	電気電子	40	6	▲34	7
	商業	総合情報	80	62	▲18	62
遠野	普通	普通	160	140	▲20	141
遠野緑峰	農業	生産技術	40	32	▲8	32
	商業	情報処理	40	16	▲24	17
大槌	普通	普通	80	67	▲13	71
山田	普通	普通	80	27	▲53	30
宮古	普通	普通	240	205	▲35	206
宮古北	普通	普通	40	27	▲13	29
宮古工業	工業	機械	40	29	▲11	29
	工業	電気電子	40	17	▲23	17
	工業	建築設備	40	18	▲22	18
宮古商業	商業	商業	40	39	▲1	39
	商業	会計	40	28	▲12	26
	商業	流通経済	40	40	0	43
	商業	情報	40	39	▲1	40
宮古水産	水産	海洋技術	40	21	▲19	25
	水産	食品家政	40	24	▲16	24
	家庭	食物	40	38	▲2	38
岩泉	普通	普通	80	48	▲32	50
久慈	普通	普通	200	168	▲32	168
久慈東	総合	総合	200	196	▲4	196
久慈工業	工業	電子機械	40	19	▲21	19
	工業	建設環境	40	23	▲17	23
種市	普通	普通	80	32	▲48	32
	工業	海洋開発	40	32	▲8	34
大野	普通	普通	80	30	▲50	30
軽米	普通	普通	80	45	▲35	45
伊保内	普通	普通	40	31	▲9	33
福岡	普通	普通	200	184	▲16	184
福岡工業	工業	機械システム	40	29	▲11	29
	工業	電気情報システム	40	28	▲12	28
一戸	総合	総合	120	100	▲20	100

10,120 8,673 ▲1,447 9,660

<定時制>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
杜陵	普通	1・2部	120	40	▲80	45
	普通	3部	40	1	▲39	2
杜陵奥州	普通	昼間部	40	14	▲26	15
	普通	夜間部	40	3	▲37	3
盛岡工業	工業	工業	40	5	▲35	3
一関第一	普通	普通	40	6	▲34	6
大船渡	普通	普通	40	5	▲35	5
釜石	普通	普通	40	7	▲33	8
宮古	普通	普通	40	9	▲31	12
久慈長内	普通	昼間部	40	8	▲32	10
	普通	夜間部	40	2	▲38	2
福岡	普通	普通	40	4	▲36	5
			560	104	▲456	116

<通信制>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
杜陵	普通	普通	300	23	▲277	30
			300	23	▲277	30

※参考<市立>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検者 数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	37	2	51
	普通	普通	160	164	4	273
	商業	商業	80	83	3	111
			275	284	9	435

(4) 県外から県内への志願の取扱いについて

1 推薦入学者選抜

推薦入学者選抜は、岩手県内の中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部からの志願に限っている。

ただし、東日本大震災津波の被災により、岩手県内から県外に転学した生徒が志願する場合は受検を認めている。

2 一般入学者選抜

県外からの志願については、次の場合が考えられる。

(1) 東日本大震災津波の被災により、岩手県内から県外に転学した生徒が志願する場合

(2) 「県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定」に基づく志願

青森県、秋田県、宮城県の指定した県境隣接地域に住所を有する者は、県境隣接地域に所在する指定した岩手県立高等学校に、通常の手続きにより出願できる。

(3) 保護者の転勤による県内への一家転住等、特別な事由による出願

出願前に、志願先高等学校に「特別入学志願承認手続」を行い、志願事由等について審査を受け、志願承認された場合に出願できる。

(4) 次の学校（学科）への出願

学校（学科）に対して明確な志望理由がある場合、上記(2)、(3)に関わらず出願できる。

学校	学科	理由
葛巻高校	普通科	葛巻町が取り組んでいる「くずまき山村留学」において、寄宿舍を整備する等、生徒の生活環境を保証している。
水沢農業高校	農業科学科	特色ある科目である「馬学」を開設している。
種市高校	海洋開発科	潜水と土木の基礎的知識と技術を学べる全国唯一の学科を設置している。

〈参考〉上記3校の県外から入学者の状況

学校	県外からの入学者の状況
葛巻高校	平成27年度から始まった山村留学を利用し、平成27年度に1人、平成28年度に2人、平成29年度に3人が県外から入学している。
水沢農業高校	県外からの入学について、平成25年度入試で1人が入学している。
種市高校	県境隣接地域の青森県からの入学を含め、平成27年度に7人、平成28年度に12人、平成29年度に13人が入学している。

(5) 通学区域（学区）について

【学区の定義】

学区(通学区域)とは、特定の高等学校への入学志願者の過度の集中を避け、高等学校教育の機会の均等を図り、生徒の就学、通学の適正を図るため、就学希望者が就学すべきその所管に属する高等学校を指定した区域である。

【法的根拠】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第50条により、各教育委員会が学区を指定していた。平成14年1月、第50条が削除された。削除の理由は、規制緩和を一層推進する観点から、通学区域の設定を当該高等学校を所管する教育委員会の判断に委ねることとしたものである。

〔本県の通学区域（学区）に関する検討と変遷〕

年度	経緯
昭和24年	「岩手県立高等学校学則」が定められる。 21学区
昭和30年	学区が新設される。 25学区
昭和32年	「岩手県立高等学校の通学区域に関する規則」が定められる。 20学区
平成6年	総合学科高校（岩谷堂高校）の導入に伴い、1学区消滅。 19学区
平成10年	県立高等学校長期構想検討委員会より、「受験競争の緩和と学校選択の自由という二つの要請を同時に考えるとき、学区を定めつつ、学区外入学を一定の割合で認めるという現行の制度は、今後においても有効であると考え、昭和32年改訂より40年あまりたっており、この間、交通の利便性の向上等社会状況も大きく変わっていること等から、今後、学区の取り扱い等について見直しの検討が必要である」旨の報告がなされた。
平成10年	「岩手県立高等学校入学者選抜の在り方に関する調査研究委員会」の設置。学区の見直しを検討。
平成12年～13年	「岩手県立高等学校入学者選抜方策検討委員会」の設置。学区の見直しを検討。 学区は「広域化を進めることが妥当であり、その程度については、高等学校新整備計画の計画単位である9広域生活圏とする案を中心に審議したが、9学区にしても、現行の19学区と同じ範囲となる学区もあることから、慎重に判断する必要がある」とともに、「学区を9広域生活圏程度に広域化した場合、学区内許容率は、当面10%が妥当である」旨報告。
平成16年	「岩手県立高等学校の通学区域に関する規則」を改正、9広域生活圏を基本とした 8学区 とし（学区の数19→8）、学区外許容率を10%とした（学区外許容率15%→10%）。
平成17年～18年	「県立高校入試改善検討委員会」を設置、学区について、「8学区がようやく落ち着いてきたところで、デメリットを感じさせない。当面は8学区のままとすることが望ましい。しかし、普通科のみに学区を設定しているのは問題があり、教育の機会均等のため全県一区にすべきである等の学区を廃止した方がいいとの意見もあった。」という提言をいただく。 8学区を継続
平成22年～23年	「県立高校入試改善検討委員会」を設置、「推薦入試の在り方」、「一般入試の在り方」、「その他の入試に係る事項」等について検討を進める。
平成27年	一般入試の志願者数が募集定員を超えない場合は、学区外許容率（10%）を超えて入学を許可することができるとした。

(6) 学区と高校配置に関する地区割、ブロックの県立高等学校の配置

[学区の状況]

[学区]

岩手県立高等学校の通学区域に関する規程に定める区域で、高等学校に就学しようとする者は、学区内の高等学校に出願することを原則とする。ただし、特例により、学区の制限を受ける者は、全日制の課程の普通科に出願する者のみとなっている。また、全日制の課程の普通科においても、定員の10%以内で学区外からの入学を認めているが、一般入試の志願者数が募集定員を超えない場合は、学区外許容率を超えて入学を許可することができるとしている。

学区名	高等学校	学区に属する区域
盛岡学区	盛岡第一 盛岡第二 盛岡第三 盛岡第四 盛岡北 盛岡南 不来方 沼宮内 葛巻 平舘 雫石	盛岡市 花巻市のうち平成17年12月31日における稗貫郡大迫町及び同郡石鳥谷町の区域 八幡平市 滝沢市 岩手郡雫石町 岩手郡葛巻町 岩手郡岩手町 紫波郡紫波町 紫波郡矢巾町 宮古市のうち平成21年12月31日における下閉伊郡川井村の区域
岩手中部学区	花巻北 花巻南 大迫 黒沢尻北 西和賀	花巻市 北上市 遠野市のうち小友町及び平成17年9月30日における上閉伊郡宮守村の区域 紫波郡紫波町 和賀郡西和賀町
胆江学区	水沢 前沢 金ヶ崎	北上市のうち相去町 奥州市 胆沢郡金ヶ崎町 西磐井郡平泉町
両磐学区	一関第一 花泉 大東 千厩	一関市 奥州市のうち平成18年2月19日における胆沢郡衣川村の区域 西磐井郡平泉町
気仙・釜石学区	高田 大船渡 住田 釜石 遠野 大槌	大船渡市 遠野市 陸前高田市 釜石市 気仙郡住田町 上閉伊郡大槌町
宮古学区	山田 宮古 宮古北 岩泉	宮古市 下閉伊郡山田町 下閉伊郡岩泉町 下閉伊郡田野畑村
久慈学区	久慈 種市 大野	久慈市 下閉伊郡岩泉町のうち安家 下閉伊郡普代村 九戸郡洋野町 九戸郡野田村
二戸学区	軽米 伊保 福内 福岡	二戸市 八幡平市のうち平成17年8月31日における岩手郡安代町の区域 岩手郡葛巻町 九戸郡軽米町 九戸郡洋野町のうち平成17年12月31日における九戸郡大野村の区域 九戸郡九戸村 二戸郡一戸町

[高校配置等に関する地区割]

県立高等学校や学科の配置、学級数の調整を行う際の地区割（ブロック）。広域生活圈（9圏域）を基本とし、気仙・釜石学区を気仙ブロックと遠野・釜石ブロックに分割している。

学区	ブロック	ブロック内市町村	ブロック内の高等学校（平成29年度）			
盛岡	盛岡	盛岡市	盛岡第一	盛岡第二	盛岡第三	盛岡第四
			盛岡南	杜陵（定・通）	盛岡工業（全・定）	盛岡商業
			盛岡市立			
			岩手	岩手女子	盛岡白百合	江南義塾盛岡
			盛岡誠桜	盛岡大付属	盛岡スコーレ	盛岡中央（全・通）
		八幡平市	平館			
		滝沢市	盛岡北	盛岡農業		
		雫石町	雫石			
		葛巻町	葛巻			
		岩手町	沼宮内			
紫波町	紫波総合					
矢巾町	不来方					
岩手中部	岩手中部	花巻市	花巻北	花巻南	花巻農業	花北青雲
			大迫	花巻東		
		北上市	黒沢尻北	北上翔南	黒沢尻工業	専修大学北上
西和賀町	西和賀					
胆江	胆江	奥州市	水沢	水沢農業	水沢工業	水沢商業
			前沢	岩谷堂	杜陵奥州（定・通）	水沢第一
		金ヶ崎町	金ヶ崎			
両磐	両磐	一関市	一関第一（全・定）	一関二	一関工業	花泉
			大東	千厩	一関学院（全・通）	一関修紅
		平泉町				
気仙・釜石	気仙	大船渡市	大船渡（全・定）	大船渡東		
		陸前高田市	高田			
		住田町	住田			
	釜石・遠野	釜石市	釜石（全・定）	釜石商工		
		遠野市	遠野	遠野緑峰		
大槌町	大槌					
宮古	宮古	宮古市	宮古（全・定）	宮古北	宮古工業	宮古商業
			宮古水産			
		山田町	山田			
		岩泉町	岩泉			
田野畑村						
久慈	久慈	久慈市	久慈	久慈長内（定）	久慈東	
		普代村				
		洋野町	種市	大野		
		野田村	久慈工業			
二戸	二戸	二戸市	福岡（全・定）	福岡工業		
		一戸町	一戸			
		軽米町	軽米			
		九戸村	伊保内			

※ なお、斜体は市立高校及び私立高校となります。

(7) 普通科における一般入試学区外志願者数

※普通科(理数科を含む)

学区	学校名	H27		H28		H29		学区外最大 入学者数
		定員	一般入試学区 外志願者数	定員	一般入試学区 外志願者数	定員	一般入試学区 外志願者数	
盛岡学区	盛岡一(普通・理数)	280	37	280	33	280	34	64
	盛岡二	200	5	200	3	200	5	20
	盛岡三	280	12	280	27	280	③⑩	28
	盛岡四	280	10	280	9	280	11	28
	盛岡北	240	5	240	9	240	6	24
	盛岡南	160	2	160	3	160	8	16
	不来方(人文・理数)	160	6	160	②①	160	①⑨	16
	沼宮内	80	0	80	1	80	0	8
	葛巻	80	7	80	5	80	①⑧	8
	平館	80	1	80	1	80	1	8
	雫石	80	0	80	0	80	0	8
盛岡学区 計	1,920	85	1,920	112	1,920	132	228	
岩手 中部学区	花巻北	240	15	240	13	240	23	24
	花巻南(人文・自然)	120	1	120	0	120	8	12
	大迫	40	0	40	0	40	0	4
	黒沢尻北	240	14	240	10	240	22	24
	西和賀	40	0	40	0	40	0	4
	岩手中部学区 計	680	30	680	23	680	53	68
胆江学区	水沢(普通・理数)	240	0	240	4	240	8	60
	前沢	80	5	80	3	80	0	8
	金ヶ崎	120	2	120	2	120	3	12
	胆江学区 計	440	7	440	9	440	11	80
両磐学区	一関一(普通・理数)	240	5	240	9	240	10	40
	花泉	40	0	40	0	40	0	4
	大東	120	1	120	0	120	1	12
	千厩	120	0	120	0	120	0	12
	両磐学区 計	520	6	520	9	520	11	68
気仙・ 釜石学区	高田	160	0	160	0	160	1	16
	大船渡	200	0	200	0	200	1	20
	住田	40	0	40	1	40	0	4
	釜石(普通・理数)	200	2	200	3	200	4	56
	遠野	160	3	160	13	160	10	16
	大槌	120	0	120	1	80	0	8
	気仙・釜石学区 計	880	5	880	18	840	16	120
宮古学区	山田	80	0	80	0	80	0	8
	宮古	240	1	240	1	240	0	24
	宮古北	40	2	40	1	40	0	4
	岩泉	80	2	80	0	80	0	8
	宮古学区 計	440	5	440	2	440	0	44
久慈学区	久慈	200	0	200	2	200	0	20
	種市	80	0	80	0	80	1	8
	大野	80	1	80	0	80	1	8
	久慈学区 計	360	1	360	2	360	2	36
二戸学区	軽米	80	0	80	0	80	1	8
	伊保内	80	0	80	0	40	0	4
	福岡	200	3	200	2	200	1	20
	二戸学区 計	360	3	360	2	320	2	32
総計	5,600	142	5,600	177	5,520	227	676	

※ なお、ゴシックは平成29年度入試で一般入試の志願者が募集定員を超えなかった高校を示している。
また、○数字は学区外最大入学者数を超える学区外志願者があったことを示している。

注1) 普通科(学区あり)と理数科(全県1学区)を併置する学校(盛岡一、水沢、一関一、釜石)は、くくり募集(入試時点では学科を分けずに一括して募集、選抜する)を行っているため、理数科の定員(40人)に普通科の定員の10%を合計した人数が、学区外からの入学者数の上限となっているものである。

注2) 平成29年度から、大槌高校は募集定員が80人、伊保内高校は募集定員が40人となっているものである。

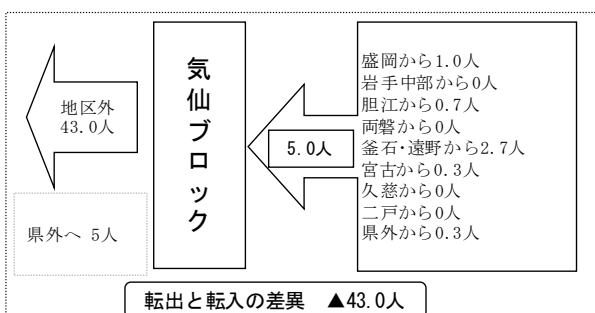
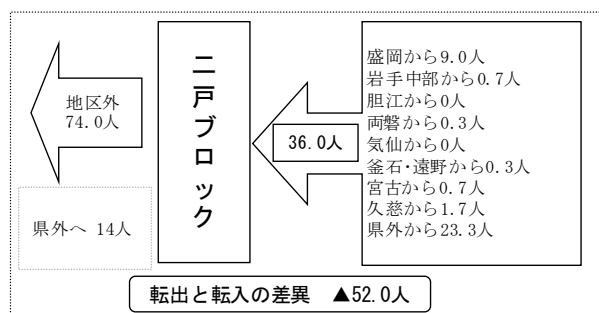
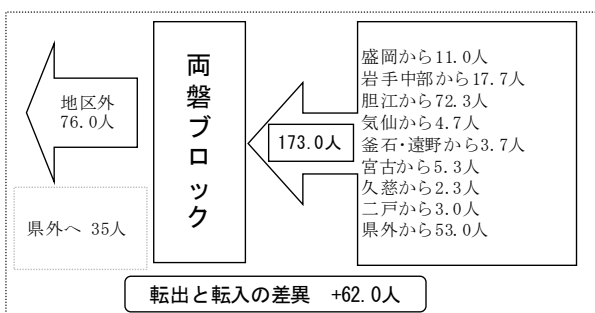
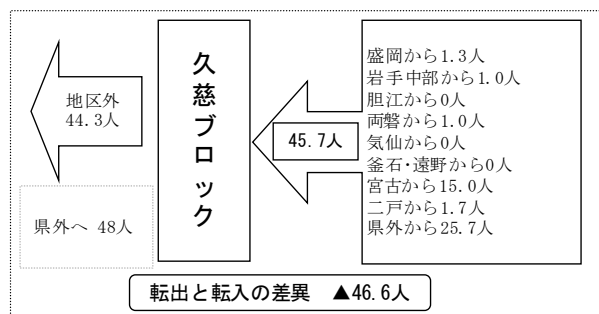
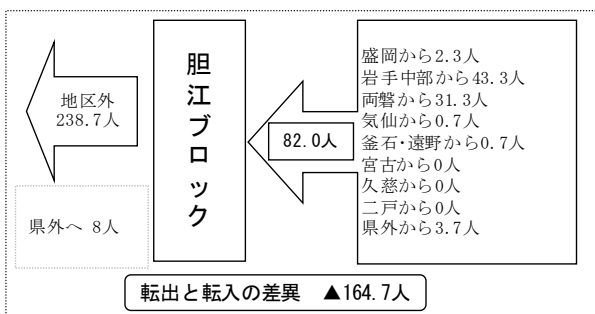
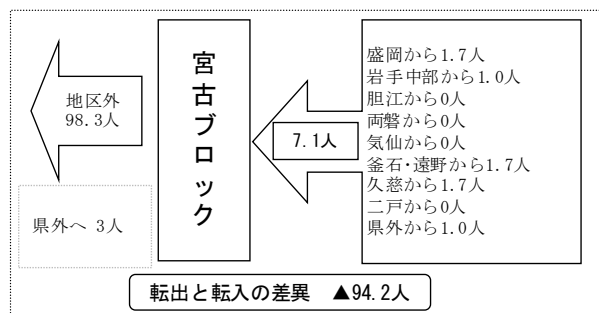
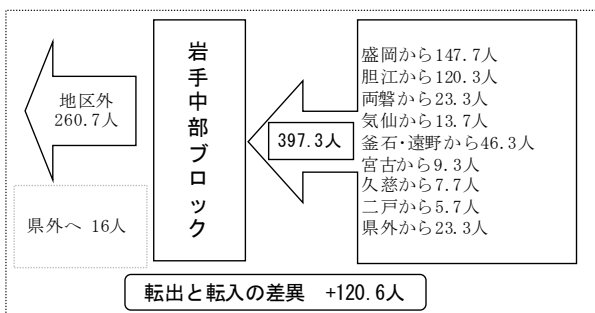
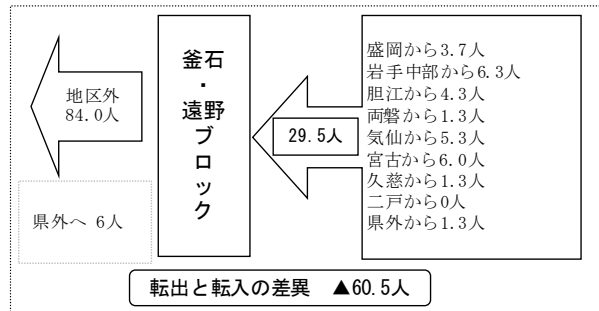
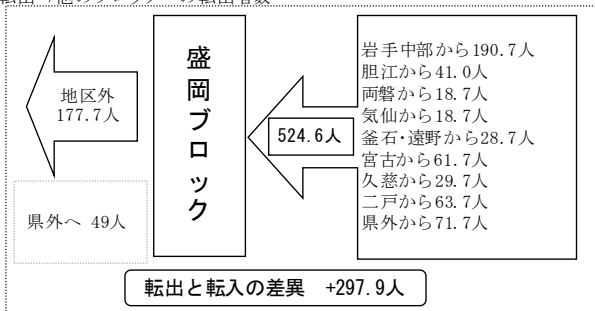
注3) 岩手県立高等学校の通学区に関する規則の改正により、平成27年度入試から一般入試の志願者数が募集定員を超えない場合は、学区外許容率(募集定員の10%)を超えて入学を許可することができるとしている。

(8) ブロック間交流【3年間（H26・27・28）の平均】

※公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）

※転入⇒他のブロック及び県外からの転入者数

※転出⇒他のブロックへの転出者数



(9) 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート

平成 29 年度

県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート

〔平成 29 年 8 月実施〕

I	アンケート調査の概要	1
II	アンケート結果	2

岩手県教育委員会

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、県外からの志願者の受入れと通学区域（学区）についての考えを把握するために実施し、県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議における検討の参考に資することを目的とする。

2 実施時期

平成 29 年 8 月 17 日（木）～9 月 8 日（金）

3 調査の内容

県外からの志願者の受入れ及び通学区域のあり方等

4 調査の対象

- (1) 県内全ての公立中学校長、義務教育学校長、県立高等学校長
- (2) 県内全ての公立中学校、義務教育学校及び県立高等学校の P T A 会長

5 送付書類

- (1) 対象者へ県教委からアンケート用紙、回答用紙を送付
- (2) アンケート実施後、回答用紙を県教委へ送付
- (3) 県教委で集計・分析

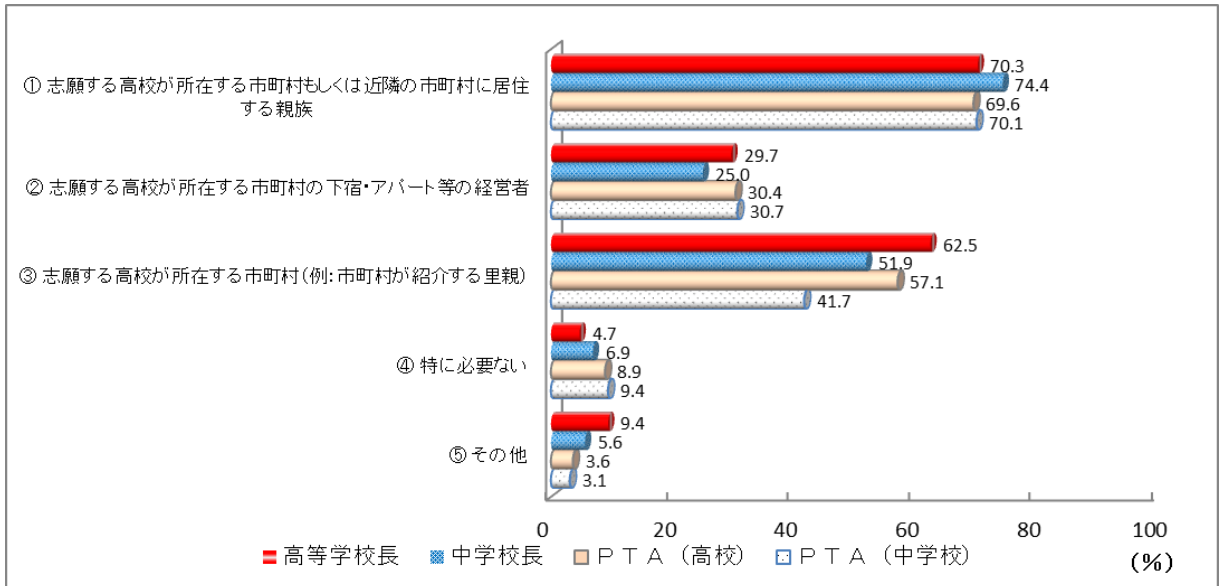
6 回答用紙の提出について

	対象者数	回収数	回収率
県立高等学校長	64	64	100.0%
公立中学校長	160	160	100.0%
P T A 会長（高校）	64	57	89.1%
P T A 会長（中学校）	161	126	78.3%
県 全 体	449	407	90.6%

Ⅱ アンケート結果

1 県外からの志願者の受入れについて

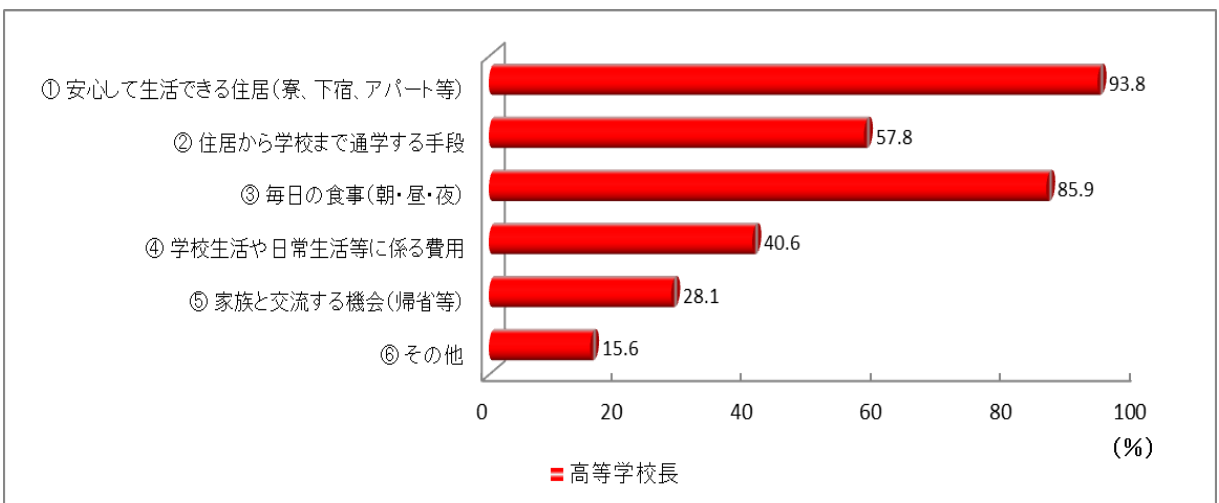
質問① 保護者に代わり志願者を保護する者の条件として、適切と考えられるものを、①～⑤の中から教えてください。（全員回答）（複数回答可）



すべての対象において「①志願する高校が所在する市町村もしくは近隣の市町村に居住する親族」が最も多い。

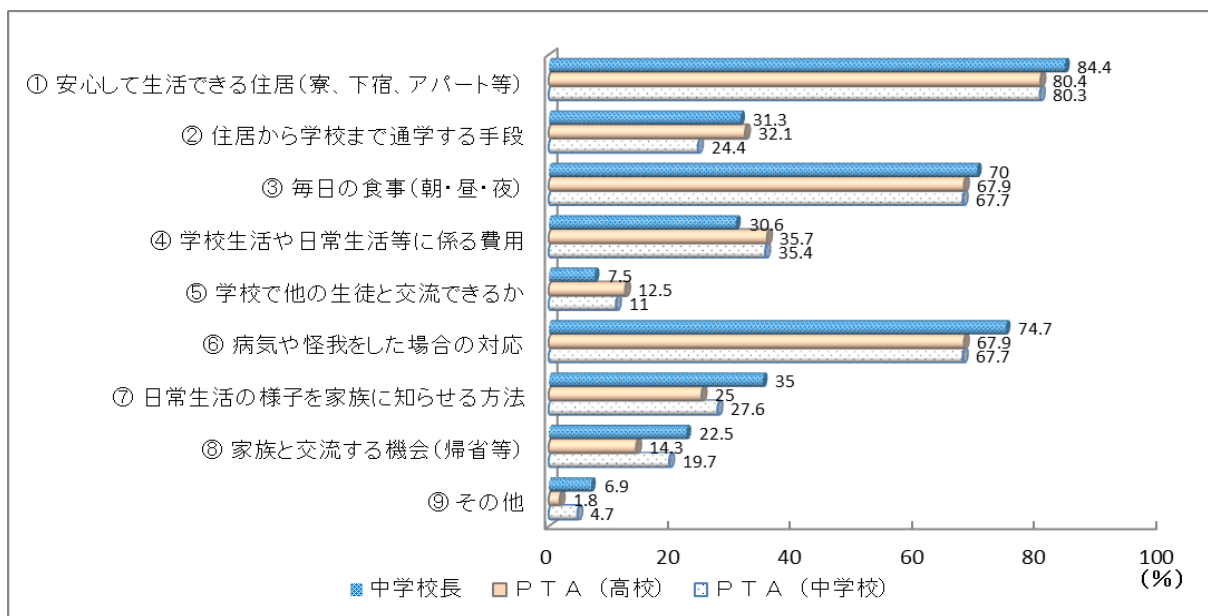
また、すべての対象において「④特に必要ない」の割合は少なく、志願者を保護する者には一定の条件が必要と考える傾向が強い。

質問② 県外からの志願を認める場合、どのような環境が必要と考えますか。①～⑥の中から教えてください。（高等学校長）（複数回答可）



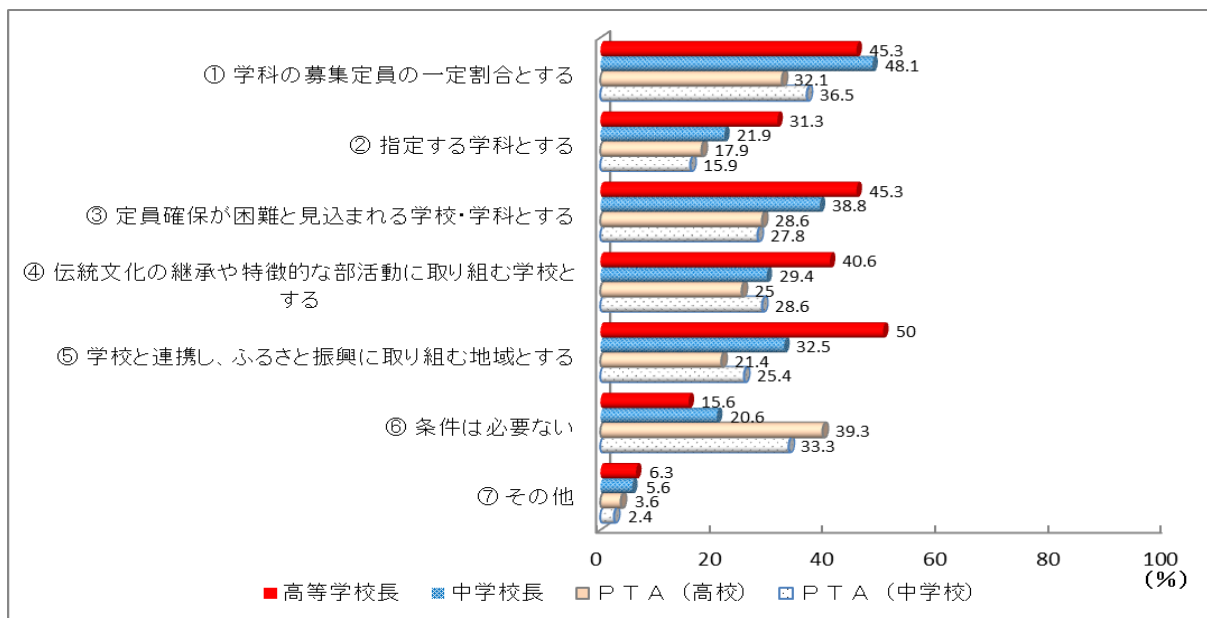
高等学校長では、「①安心して生活できる住居」が93.8%、「③毎日の食事」が85.9%と多く、安心して生活できる環境が重要と考えている。

質問③ 県外からの志願を認める場合、心配されることとしてどのようなことが考えられますか。①～⑨の中から答えてください。（中学校長、PTA会長）



質問②の高等学校長の回答同様、「①安心して生活できる住居」、「③毎日の食事」「⑥病気や怪我」について心配する回答が多く、安心して生活できる環境が重要と考えている。

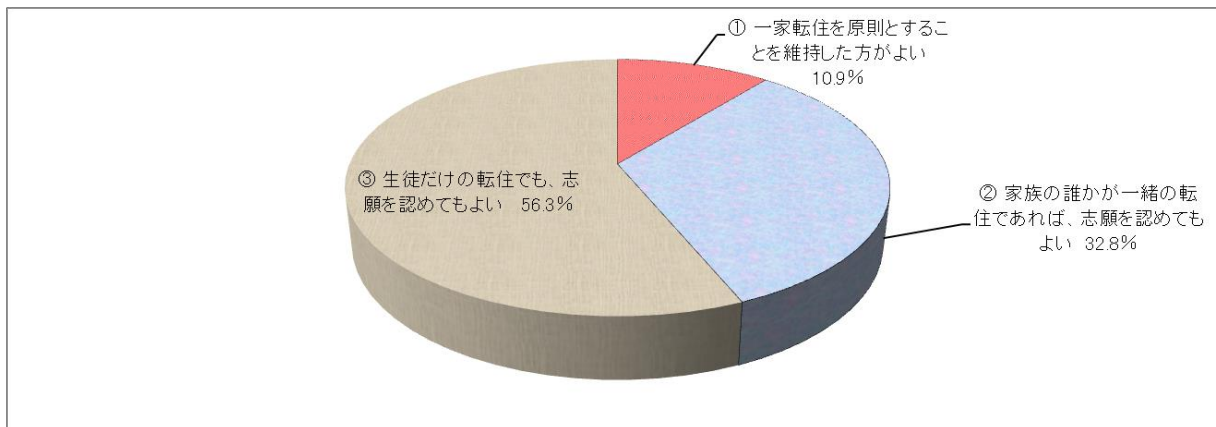
質問④ 県外からの志願を認める条件としてどのようなことが考えられますか。①～⑦の中から答えてください。（全員回答）（複数回答可）



①～⑤のすべての条件において、高等学校長及び中学校長は必要と回答する割合が多い。その反面、PTA（高校・中学校）では、「⑥条件は必要ない」の割合が多いことから、条件の必要性については、学校と保護者の考えに違いが見られる。
 高等学校長では「⑤学校と連携し、ふるさと振興に取り組む地域」（50.0%）が最も多く、次いで「①学科の募集定員の一定割合」（45.3%）、「定員確保が困難と見込まれる学校・学科」（45.3%）となっている。

[質問 5、質問 6]については、現在勤務する高校の校長の立場で回答を求めたものです。]

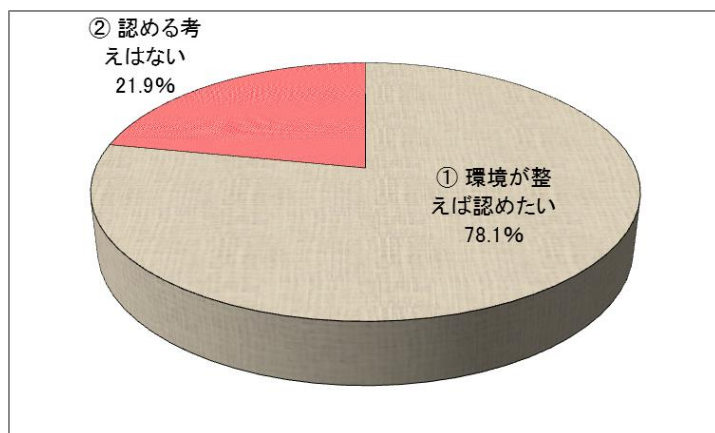
質問 5 現在、県外から県立高等学校への志願については、原則として保護者の転勤による県内への一家転住等、特別な事由がある場合に限られています。これについて、どのように考えますか、①～③の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。(高等学校長)



高等学校長では、「③生徒だけの転住でも、志願を認めてもよい」が56.3%と最も多く、県外からの志願条件である「①一家転住を原則とすることを維持した方がよい」は10.9%と低い割合となっている。

県外からの志願を認める場合は、一家転住を原則とする必要がないと考える傾向が強い。

質問 6 県外からの志願を認めることについて、どのように考えますか。①、②のいずれか1つを選び、数字で教えてください。(高等学校長)

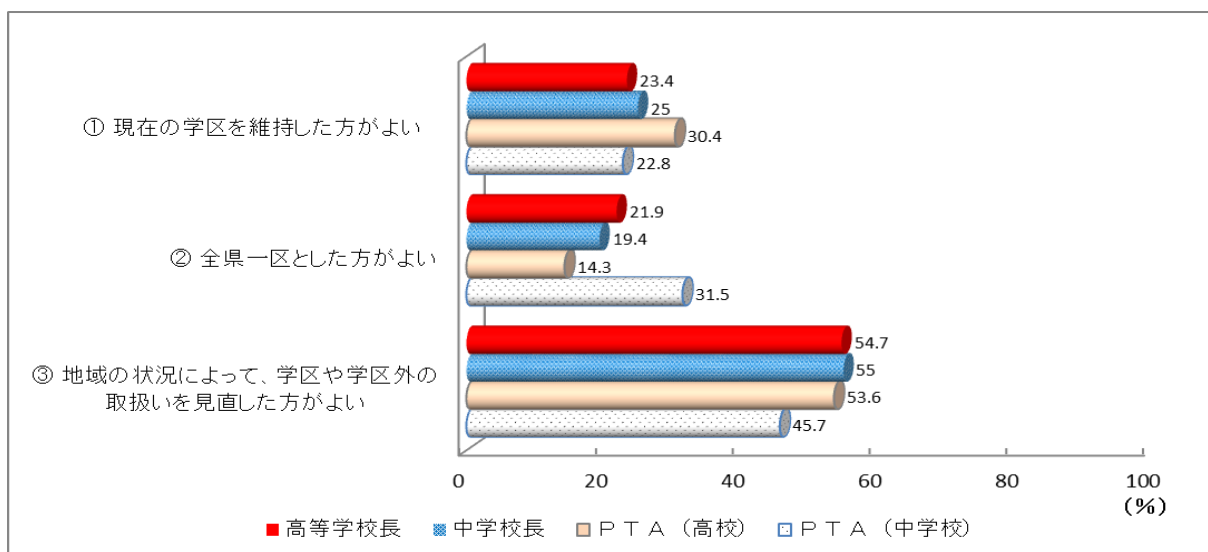


高等学校長では「①環境が整えば認めたい」が78.1%であり、「②認める考えはない」(21.9%)を大きく上回っている。

認める場合の環境については質問 2、条件については質問 4の回答に関連があり、受入れ環境や条件が整えば認めたいと考える傾向が伺える。

2 通学区域（学区）について

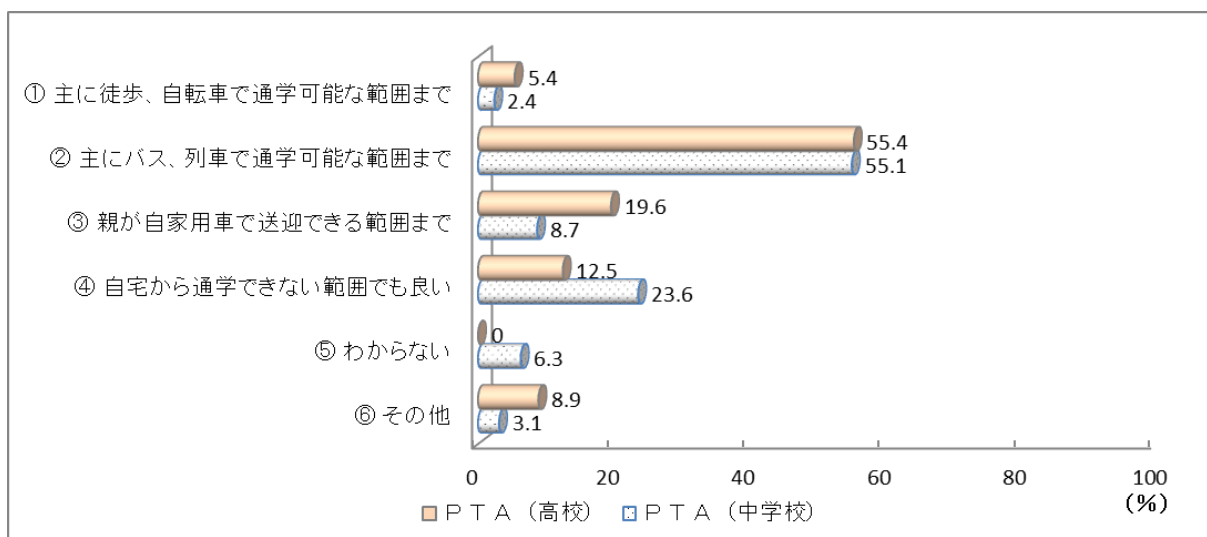
質問 7 現在、全日制課程普通科（一部の学系、コースを除く）に設けている学区について、どのように考えますか。①～③の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（全員回答）



すべての対象において、「③地域の状況によって、学区や学区外の取扱いを見直した方がよい」が多く、具体的には内陸部以外の高校の生徒募集に配慮が必要とする考えが多い。

PTA（中学校）では、「②全県一区とした方がよい」も30%以上となっており、理由としては公平な高校選択の機会を望むこと等がある。

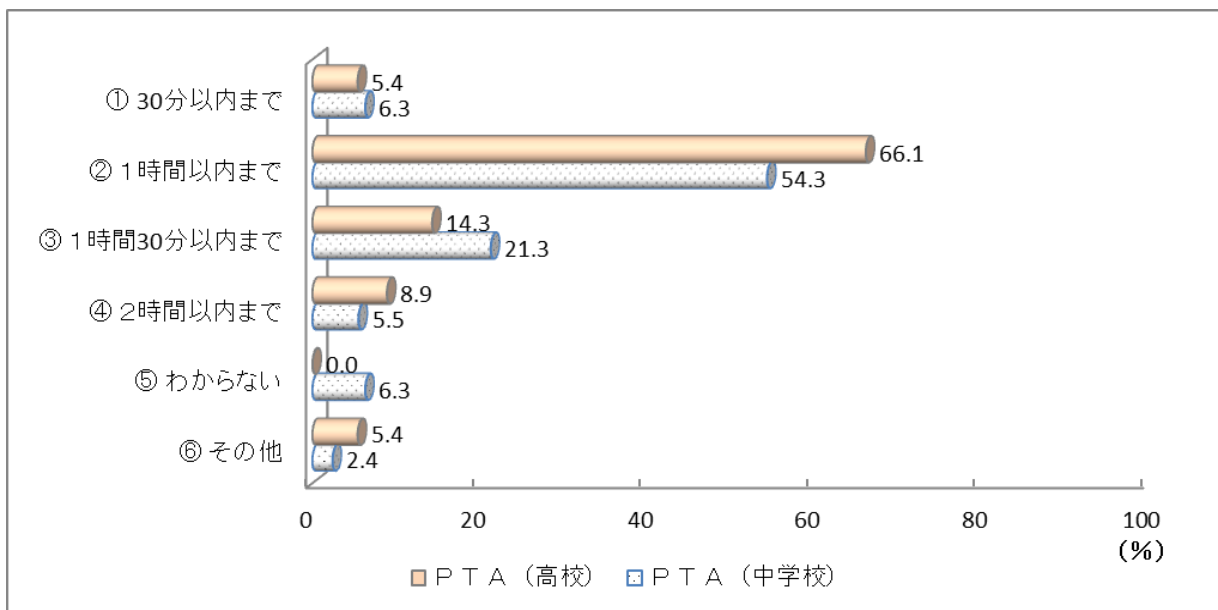
質問 8 高校への通学の範囲について、どの程度までが良いと考えますか。①～⑥の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（PTA会長）



高校・中学校のPTAともに、「②主にバス、列車で通学可能な範囲まで」と回答する割合が大きく、公共交通機関で通学できる範囲と考えている。

中学校のPTAでは、「④自宅から通学できない範囲でもよい」が23.6%であり、子どもが希望する高校への進学を優先する考えが多い。

質問 ⑨ 通学（片道）にかけても良いと思う時間をどの程度までと考えますか。
 ①～⑥の中から、最も近い考えを1つ選び、数字で教えてください。（P
 T A会長）



高校・中学校のP T Aともに、「② 1時間以内まで」の割合が大きく、半数以上を占めている。

- (10) 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する市町村教育委員会との意見交換における主な意見

**県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する
市町村教育委員会との意見交換実施結果**

1 意見交換実施期間

平成 29 年 7 月 18 日(火)～平成 29 年 8 月 29 日(火)

2 実施方法

意見交換会（教育事務所単位）または市町村教育委員会への個別訪問

3 意見交換項目

- (1) 県外からの入学志願者の受入れについて

ア 受入れを認めるかどうか

イ 受入れの条件

- (2) 通学区域のあり方について

4 意見の状況（全体）

- (1) 県外からの入学志願者の受入れについて

ア 受入れを認めるかどうか

	項目	件数	割合
①	受入れを認める（条件付きを含む）	20	60.6%
②	受入れを認めない	0	0.0%
③	受入れに反対ではないが様々な課題がある	5	15.2%
④	その他	2	6.1%
⑤	意見なし	6	18.2%
		計 33	

イ 受入れの条件

	項目	件数
①	定員割れしている学校	4
②	部活動	8
③	特色ある教育活動	3
④	地域のバックアップ	5
⑤	その他	2
		計 22

- (2) 通学区域のあり方について

	項目	件数	割合
①	現状維持	9	27.3%
②	全県一区	5	15.2%
③	その他	6	18.2%
④	意見なし	13	39.4%
		計 33	

5 意見の要旨（ブロック毎）

(1) 盛岡ブロック（盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町）

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを導入してほしい	2
	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	4
	県外からの入学志願者を受け入れることにより、県内の中学生が入学できないことになることは好ましくないことから、欠員を生じている学校に限定する	3
	特徴的な部活動を受入れ要件とする	3
	地域の特性を生かした特色ある教育活動、学科編制、学校運営等を行っている学校に限定する	1
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
	不登校や不適應の生徒も受け入れるのかどうか議論が必要	1
通学区域のあり方	現在の学区外入学者数の状況から、現行の通学区域の設定及び10%の学区外許容率は、概ね妥当であると考え	1

(2) 岩手中部ブロック（花巻市、北上市、西和賀町）

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	3
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	現在の学区外入学者数の状況から、現行の通学区域の設定及び10%の学区外許容率は、概ね妥当であると考え	2
	通学区域を全県一区とすると、経済力のある者や交通の便が良い地区に住む者のみが流出する（恩恵を得る）こととなり、望ましいことではないと考える	1

(3) 胆江ブロック（奥州市、金ケ崎町）

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	2
	受入れの条件の検討においては、伝統芸能に力を入れている学校もあることから、そのような学校の特色も考慮したい	1
	不登校や不適應の生徒も受け入れるのかどうか議論が必要	1
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1
	通学区域を全県一区としたとしても、あまり大きな影響はないと考える	1

(4) 両磐ブロック（一関市、平泉町）

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを検討することはよいが、地域外への流出を防止する対策も併せて検討する必要がある	1
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1
	同じ通学区域の中でも入学志願者が集まる地域と集まらない地域がある	1

(5) 気仙ブロック（大船渡市、陸前高田市、住田町）

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを可能とする制度にしたとしても、実際に県外からの入学者を集めるためには、その学校において相当な魅力がないと難しい	1
	東北本線沿いと沿岸部等の過疎地域とでは地域事情が大きく異なるので、生徒の多様な受入れのあり方の検討においては、その点も考慮して進めてほしい	1

(6) 釜石・遠野ブロック（遠野市、釜石市、大槌町）

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	1
	県外からの入学志願者を受入れたとしても、将来に渡って、現在の学校規模を維持することは困難であるし、さらには学校の存続自体が危ぶまれる。生徒の多様な受入れのあり方の検討においては、学校を存続させるという観点ではなく、「学び」をどのように残していくのかという観点で検討していく必要がある	1
	県外からの入学志願者を受け入れることにより、県内の中学生が入学できないことになることは好ましくないことから、欠員を生じている学校に限定する	1
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	学校選択の可能性を拡げることも大切であることから、通学区域は全県一区にすべきと考える	1

(7) 宮古ブロック（宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村）

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを導入してほしい	1
	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	3
	特徴的な部活動を受入れ要件とする	3

(宮古ブロックのつづき)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	地域の特性を生かした特色ある教育活動、学科編制、学校運営等を行っている学校に限定する	1
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1
	目的意識がしっかりしている生徒は学区外の枠がなくとも動揺しないと考える	1
	盛岡地区の学校への進学を目指す生徒は学区外許容率の枠について関心が高い	1

(8) 久慈ブロック (久慈市、洋野町、野田村、普代村)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	今後の高校入学志願者の減少傾向を考えると、県外からの入学志願者の受入れを認める方向で検討する必要があるが、一定の条件は必要である	1
	県外からの入学志願者の受入れを可能とする制度にした場合、受け入れる各市町村(学校)は支援内容面だけの競い合いになってしまい、本来重視すべき、地域や学校の魅力づくりが後回しになってしまうことが懸念される	1
	県外からの入学志願者を受け入れるためには、市町村による取組と学校による取組が必要であり、また持続可能な取組とする必要がある	1
	特徴的な部活動を受入れ要件とする	2
	生徒の生活環境の整備を行っている地域に限定する	1
通学区域のあり方	現在の学区外入学者数の状況から、現行の通学区域の設定及び10%の学区外許容率は、概ね妥当であると考え	1
	学校選択の可能性を拡げることも大切であることから、通学区域は全県一区にすべきと考える	1
	通学区域を全県一区としたとしても、あまり大きな影響はないと考える	1
	学業や部活動に高い意欲をもって通学区域外の高校を志望する生徒について、通学区域外許容率の枠に縛られないことが望ましいが、市町村としては地域の高校に進学してほしいと考えることから、難しい問題である	1

(9) 二戸ブロック (二戸市、軽米町、九戸村、一戸町)

項目	意見の趣旨	件数
県外からの入学志願者の受入れについて	県外からの入学志願者の受入れを導入してほしい	2
通学区域のあり方	通学区域を全県一区とすると、盛岡市内の学校への流入が更に加速すると思われる	1

(二戸ブロックのつづき)

項目	意見の趣旨	件数
通学区域のあり方	学校選択の可能性を拓げることも大切であることから、通学区域は全県一区にすべきと考える	1
	市町村の状況が異なることから、県内の全高校に共通した議論とすることはできない。議論する対象は、過疎地の小規模校等、特殊な状況におかれている学校に限るのではないか	1

2 県外からの志願者の受入れについて

- (1) 県外からの生徒の受入れを特別に認めている高校の入学者の状況
(葛巻高校、水沢農業高校、種市高校)

[葛巻高校] (普通科)

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳				県外
				葛巻町	久慈市	岩泉町	その他	
H27	80	48	▲32	36	5	3	3	1
H28	80	41	▲39	30	3	4	1	2
H29	80	51	▲29	29	10	7	2	3

[水沢農業高校] (農業科学科、環境工学科、生活科学科)

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳			県外
				奥州市	金ヶ崎町	その他	
H27	120	77	▲43	46	9	22	0
H28	120	68	▲52	44	5	19	0
H29	120	59	▲61	39	2	18	0

[種市高校] (海洋開発科)

※ 県境隣接地の中学校からの入学者

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳			県外	
				洋野町	久慈市	その他	青森県※	その他
H27	40	31	▲9	17	6	1	3	4
H28	40	34	▲6	18	3	1	9	3
H29	40	32	▲8	17	1	1	12	1

<参考>

[種市高校] (普通科)

年度	定員	入学者数	欠員	県内市町村別内訳			県外	
				洋野町	久慈市	その他	青森県※	その他
H27	80	52	▲28	25	9	0	18	0
H28	80	46	▲34	28	9	0	9	0
H29	80	32	▲48	23	1	1	7	0

(2) 県内中学生の県外高校への入学状況及び県内私立高校への県外からの入学状況

ア 県内中学生の県外高校（全日制課程）への入学状況

※（ ）は隣接協定による入学者数

入学年度	公立高校	私立高校	計
H27	73 (47)	94	167
H28	71 (37)	92	163
H29	86 (57)	114	200
平均	76.7 (47)	100.0	176.7

イ 県内の公立・私立高校の県外からの入学状況

※（ ）は隣接協定による入学者数

入学年度	公立高校	私立高校	計
H27	82 (63)	111	193
H28	93 (62)	121	214
H29	80 (51)	153	233
平均	85 (58.7)	128.3	213.3

※ 県内私立高校 (13校) の入学者
2,291
2,326
2,412

(3) 高校規模別の入学者及び部の設置等の状況

ア 入学者の状況

[1学年1学級規模の高校] 5校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
大迫	普通	40	32	▲ 8	33	21	▲ 19	21	22	▲ 18	22
花泉	普通	40	37	▲ 3	37	41	1	47	35	▲ 5	35
住田	普通	40	40	0	41	33	▲ 7	34	33	▲ 7	33
宮古北	普通	40	18	▲ 22	18	27	▲ 13	31	27	▲ 13	29
伊保内*	普通	(80)40	37	(▲43)	37	28	(▲52)	28	31	▲ 9	33

※ 伊保内高校は、平成29年度から募集定員が40人となった。

[1学年2学級規模の高校] 13校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
沼宮内	普通	80	42	▲ 38	43	29	▲ 51	29	42	▲ 38	42
葛巻	普通	80	48	▲ 32	48	41	▲ 39	41	51	▲ 29	51
雫石*	普通	80	49	▲ 31	51	39	▲ 41	42	25	▲ 55	25
西和賀**	普通	40	15	▲ 25	15	32	▲ 8	35	20	▲ 20	24
	福祉・情報コース	40	10	▲ 30	11	12	▲ 28	11	9	▲ 31	8
前沢	普通	80	47	▲ 33	48	42	▲ 38	44	41	▲ 39	42
遠野緑峰	生産技術	40	40	0	40	35	▲ 5	35	32	▲ 8	32
	情報処理	40	18	▲ 22	18	18	▲ 22	19	16	▲ 24	17
大槌**	普通	(120)80	81	(▲39)	83	71	(▲49)	74	67	▲ 13	71
山田	普通	80	50	▲ 30	50	34	▲ 46	35	27	▲ 53	30
岩泉	普通	80	59	▲ 21	59	50	▲ 30	50	48	▲ 32	50
久慈工業	電子機械	40	16	▲ 24	16	9	▲ 31	9	19	▲ 21	19
	建設環境	40	34	▲ 6	35	30	▲ 10	30	23	▲ 17	23
大野	普通	80	57	▲ 23	57	44	▲ 36	44	30	▲ 50	30
軽米	普通	80	58	▲ 22	58	48	▲ 32	48	45	▲ 35	45
福岡工業	機械システム	40	36	▲ 4	36	38	▲ 2	38	29	▲ 11	29
	電気情報システム	40	25	▲ 15	25	35	▲ 5	35	28	▲ 12	28

※1 雫石高校、※2 西和賀高校は、平成30年度から募集定員が40人となる。※3 大槌高校は、平成29年度から募集定員が80人となった。

[1学年3学級規模の高校] 11校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
平舘	普通	80	74	▲ 6	74	58	▲ 22	59	54	▲ 26	54
	家政科学	40	27	▲ 13	27	26	▲ 14	26	17	▲ 23	17
花巻農業	生物科学	40	41	1	47	39	▲ 1	39	40	0	41
	環境科学	40	42	2	48	31	▲ 9	33	40	0	49
	食農科学	40	41	1	42	41	1	42	41	1	45
水沢農業*	農業科学	40	31	▲ 9	31	30	▲ 10	30	28	▲ 12	30
	環境工学	40	15	▲ 25	15	16	▲ 24	18	14	▲ 26	14
	生活科学	40	32	▲ 8	32	22	▲ 18	22	17	▲ 23	17
水沢商業	商業	40	37	▲ 3	37	33	▲ 7	31	41	1	45
	会計ビジネス	40	40	0	40	40	0	45	40	0	36
	情報システム	40	25	▲ 15	25	42	2	48	40	0	40
金ヶ崎	普通	120	115	▲ 5	129	97	▲ 23	101	91	▲ 29	92
宮古工業	機械	40	35	▲ 5	35	21	▲ 19	23	29	▲ 11	29
	電気電子	40	12	▲ 28	12	18	▲ 22	18	17	▲ 23	17
	建築設備	40	20	▲ 20	20	23	▲ 17	28	18	▲ 22	18
宮古水産	海洋技術	40	24	▲ 16	24	33	▲ 7	43	21	▲ 19	25
	食品家政	40	24	▲ 16	24	34	▲ 6	38	24	▲ 16	24
	食物	40	27	▲ 13	27	40	0	43	38	▲ 2	38
種市**	普通	80	52	▲ 28	53	46	▲ 34	46	32	▲ 48	32
	海洋開発	40	31	▲ 9	33	34	▲ 6	34	32	▲ 8	34
一戸	総合	120	69	▲ 51	70	72	▲ 48	72	100	▲ 20	100

※1 水沢農業高校、※2 種市高校は、平成30年度から募集定員が80人となる。

[1学年4学級規模の高校] 6校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
花北青雲	情報工学	40	35	▲ 5	31	41	1	43	42	2	55
	ビジネス情報	80	84	▲ 4	94	84	4	92	84	4	107
	総合生活	40	42	2	45	42	2	38	41	1	57
水沢工業	機械	40	40	0	42	40	0	42	35	▲ 5	35
	電気	40	33	▲ 7	33	30	▲ 10	28	26	▲ 14	27
	設備システム	40	40	0	45	26	▲ 14	29	35	▲ 5	36
	インテリア	40	39	▲ 1	36	37	▲ 3	37	38	▲ 2	39
一関工業	電気	40	37	▲ 3	39	41	1	43	27	▲ 13	28
	電子	40	32	▲ 8	30	40	0	41	31	▲ 9	32
	電子機械	40	40	0	44	41	1	47	33	▲ 7	36
	土木	40	30	▲ 10	32	40	0	51	29	▲ 11	37
大東	普通	120	93	▲ 27	93	99	▲ 21	99	78	▲ 42	78
	情報ビジネス	40	34	▲ 6	35	35	▲ 5	35	27	▲ 13	28
遠野	普通	160	142	▲ 18	142	130	▲ 30	130	140	▲ 20	141
宮古商業	商業	40	40	0	45	40	0	46	39	▲ 1	39
	会計	40	36	▲ 4	30	34	▲ 6	31	28	▲ 12	26
	流通経済	40	40	0	39	40	0	39	40	0	43
	情報	40	40	0	45	40	0	38	39	▲ 1	40

[1学年5学級規模の高校] 14校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
盛岡第二	普通	200	204	4	265	200	0	207	203	3	217
盛岡農業	動物科学	40	38	▲ 2	36	42	2	51	42	2	62
	植物科学	40	38	▲ 2	29	40	0	38	40	0	43
	食品科学	40	42	2	60	42	2	57	42	2	48
	人間科学	40	42	2	44	42	2	48	40	0	37
	環境科学	40	40	0	40	40	0	36	42	2	51
紫波総合	総合	200	171	▲ 29	175	166	▲ 34	166	177	▲ 23	184
花巻南	人文科学・自然科学	120	123	3	152	123	3	142	123	3	140
	スポーツ健康科学	40	40	0	41	42	2	57	38	▲ 2	34
	国際科学	40	39	▲ 1	20	40	0	37	40	0	31
岩谷堂	総合	200	200	0	205	198	▲ 2	199	148	▲ 52	148
千厩	普通	120	109	▲ 11	109	117	▲ 3	120	101	▲ 19	101
	生産技術	40	35	▲ 5	36	38	▲ 2	38	39	▲ 1	40
	産業技術	40	32	▲ 8	32	31	▲ 9	31	33	▲ 7	33
高田	普通	160	149	▲ 11	149	164	4	167	131	▲ 29	134
	海洋システム	40	15	▲ 25	15	15	▲ 25	18	12	▲ 28	12
大船渡 ^{※1}	普通	200	200	0	200	175	▲ 25	175	200	0	200
大船渡東	農芸科学	40	20	▲ 20	21	14	▲ 26	15	21	▲ 19	14
	機械	40	41	1	41	30	▲ 10	31	16	▲ 24	17
	電気電子	40	23	▲ 17	23	15	▲ 25	15	18	▲ 22	18
	情報処理	40	23	▲ 17	23	37	▲ 3	37	26	▲ 14	24
	食物文化	40	39	▲ 1	39	24	▲ 16	26	40	0	48

〔1 学年 5 学級規模の高校〕 (つづき)

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
釜石	普通・理数	200	173	▲ 27	174	185	▲ 15	187	160	▲ 40	160
釜石商工 ^{※2}	機械・電子機械	80	47	▲ 33	51	57	▲ 23	57	51	▲ 29	52
	電気電子	40	9	▲ 31	10	10	▲ 30	11	6	▲ 34	7
	総合情報	80	44	▲ 36	46	71	▲ 9	71	62	▲ 18	62
久慈	普通	200	182	▲ 18	195	181	▲ 19	183	168	▲ 32	168
久慈東	総合	200	195	▲ 5	196	192	▲ 8	192	196	▲ 4	196
福岡	普通	200	171	▲ 29	171	194	▲ 6	196	184	▲ 16	184

※1 大船渡高校は、平成30年度から募集定員が160人となる。※2 釜石商工高校は、平成30年度から募集定員が120人となる。

〔1 学年 6 学級規模の高校〕 11校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
盛岡北	普通	240	243	3	251	243	3	345	241	1	294
盛岡南	普通	160	160	0	182	164	4	206	164	4	221
	体育コース	40	39	▲ 1	44	42	2	58	42	2	66
	体育	40	41	1	46	42	2	54	42	2	60
盛岡商業	流通ビジネス	80	82	2	95	80	0	141	82	2	109
	会計ビジネス	80	84	4	116	80	0	101	82	2	101
	情報ビジネス	80	82	2	105	81	1	93	81	1	90
花巻北	普通	240	245	5	265	235	▲ 5	239	245	5	262
黒沢尻北	普通	240	240	0	277	240	0	251	241	1	290
北上翔南	総合	240	241	1	251	240	0	242	212	▲ 28	212
黒沢尻工業	機械	40	40	0	42	40	0	52	40	0	44
	電気	40	28	▲ 12	28	40	0	41	40	0	46
	電子	40	33	▲ 7	32	38	▲ 2	35	40	0	48
	電子機械	40	31	▲ 9	31	40	0	42	40	0	39
	土木	40	37	▲ 3	39	40	0	46	40	0	54
	材料技術	40	22	▲ 18	20	39	▲ 1	43	38	▲ 2	40
水沢	普通・理数	240	245	5	265	244	4	255	238	▲ 2	239

[1学年6学級規模の高校] (つづき)

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
一関第一	普通・理数	240	232	▲ 8	233	245	5	247	242	2	269
一関第二*	総合	240	242	2	293	240	0	276	217	▲ 23	224
宮古	普通	240	220	▲ 20	221	208	▲ 32	208	205	▲ 35	206

※ 一関第二高校は、平成30年度から募集定員が200人となる。

[1学年7学級規模の高校] 5校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	入学者の状況								
			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
			合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数	合 格 者 数	過 不 足 数	総受検 者 数
盛岡第一	普通・理数	280	284	4	355	282	2	370	282	2	330
盛岡第三	普通	280	284	4	354	285	5	425	286	6	419
盛岡第四	普通	280	280	0	357	283	3	349	287	7	365
不来方	人文・理数	160	156	▲ 4	160	163	3	226	161	1	237
	芸術	40	35	▲ 5	36	40	0	50	40	0	62
	外国語	40	40	0	43	41	1	56	40	0	58
	体育	40	41	1	49	40	0	63	40	0	53
盛岡工業	機械	40	40	0	49	40	0	45	40	0	54
	電気	40	41	1	49	40	0	42	40	0	49
	電子情報	40	40	0	45	40	0	48	40	0	53
	電子機械	40	40	0	43	38	▲ 2	38	40	0	52
	工業化学	40	41	1	35	38	▲ 2	30	40	0	43
	土木	40	40	0	54	40	0	46	40	0	52
	建築・デザイン	40	40	0	55	40	0	53	40	0	55

イ 部の設置状況

[1学年1学級規模の高校] 5校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ
大迫	普通	40	☆硬式野球、弓道、◇バレーボール、ソフトテニス、登山、自転車、吹奏楽、学芸、JRC
花泉	普通	40	☆硬式野球、☆弓道、☆バスケットボール、バドミントン、◇音楽、◇茶道、総合文化
住田	普通	40	☆硬式野球、◇バレーボール、◇ソフトテニス、☆バスケットボール、陸上、アーチェリー、音楽、吹奏楽、パソコン
宮古北	普通	40	☆サッカー、☆卓球、バドミントン、総合運動、◇茶道、◇華道、写真、◇吹奏楽、美術・芸術など、総合文化
伊保内*	普通	(80)40	☆硬式野球、弓道、バレーボール、ソフトテニス、卓球、☆バスケットボール、吹奏楽、美術・芸術など、郷土芸能

※ 伊保内高校は、平成29年度から募集定員が40人となった。

[1学年2学級規模の高校] 13校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
沼宮内	普通	80	ホッケー 、☆硬式野球、剣道、☆サッカー、◇ソフトテニス、卓球、◇バスケットボール、囲碁将棋、音楽、◇茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など
葛巻	普通	80	☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、柔剣道、郷土芸能、ビジネス研究
雫石*	普通	80	☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、スキー、☆ソフトテニス、☆バスケットボール、バドミントン、陸上、軽音楽、◇茶道、◇華道、コンピュータ、郷土芸能
西和賀**	普通	40	☆硬式野球、◇バレーボール、◇ソフトテニス、卓球、バドミントン、陸上、ボート、吹奏楽、美術・芸術など
	福祉・情報コース	40	美術・芸術など
前沢	普通	80	☆硬式野球、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、バドミントン、☆ウェイトリフティング、茶道、吹奏楽、美術・芸術など、総合文化、JRC
遠野緑峰	生産技術 情報処理	40 40	☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、陸上、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、馬事研究
大槌**	普通	(120)80	☆硬式野球、弓道、柔道、サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、☆卓球、バスケットボール、バドミントン、科学（自然科学）、書道、吹奏楽、美術・芸術など、OA、インターアクト
山田	普通	80	ボート 、☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、◇バスケットボール、陸上、空手、☆相撲、茶道、華道、書道、吹奏楽、パソコン
岩泉	普通	80	☆硬式野球、弓道、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、◇バスケットボール、陸上、ボクシング、吹奏楽、美術・芸術など、家庭研究、郷土芸能
久慈工業	電子機械 建設環境	40 40	ウェイトリフティング 、☆硬式野球、☆柔道、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、☆バスケットボール、吹奏楽、美術・芸術など、工学研究、料理
大野	普通	80	卓球 、☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、バスケットボール、科学（自然科学）、吹奏楽、総合文化
軽米	普通	80	☆硬式野球、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、◇音楽、書道、吹奏楽、美術・芸術など
福岡工業	機械システム	40	弓道 、☆硬式野球、柔道、☆サッカー、☆ラグビー、☆卓球、☆硬式テニス、☆バスケットボール、総合文化
	電気情報システム	40	

※1 雫石高校、※2 西和賀高校は、平成30年度から募集定員が40人となる。※3 大槌高校は、平成29年度から募集定員が80人となった。

[1学年3学級規模の高校] 11校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
平館	普通	80	スキー 、 ☆相撲 、☆硬式野球、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、卓球、登山（山岳）、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、演劇、茶道、華道、吹奏楽、美術・芸術など、◇家庭
	家政科学	40	
花巻農業	生物科学	40	ボクシング 、☆硬式野球、弓道、柔道、◇バレーボール、ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトテニス、卓球、バドミントン、陸上、茶道、華道、吹奏楽、美術・芸術など、鹿踊り
	環境科学	40	
	食農科学	40	
水沢農業*	農業科学	40	☆硬式野球、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、◇ソフトテニス、卓球、☆バスケットボール、バドミントン、陸上、ボクシング、自転車、乗馬、茶道、吹奏楽、民族舞踊、インターアクト、芸術文化
	環境工学	40	
	生活科学	40	

[1学年3学級規模の高校] (つづき)

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況(同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
水沢商業	商業	40	☆硬式野球、◇弓道、◇バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、茶道、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、珠算電卓
	会計ビジネス	40	
	情報システム	40	
金ヶ崎	普通	120	☆硬式野球、弓道、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、吹奏楽、美術・芸術など、
宮古工業	機械	40	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、美術・芸術など、工作
	電気電子	40	
	建築設備	40	
宮古水産	海洋技術	40	☆硬式野球、◇弓道、柔道、◇バレーボール、ソフトテニス、◇卓球、バスケットボール、◇バドミントン、ボクシング、マリンスポーツ、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、太鼓、パソコン、料理手芸、インターアクト
	食品家政	40	
	食物	40	
種市**	普通	80	レスリング 、☆硬式野球、バレーボール、ソフトテニス、卓球、◇バスケットボール、◇バドミントン、陸上、語学・国際理解など、茶道、吹奏楽、家庭、情報処理
	海洋開発	40	
一戸	総合	120	☆硬式野球、◇弓道、剣道、柔道、バレーボール、◇ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、なぎなた、音楽、科学(自然科学)、茶道、華道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、華一

※1 水沢農業高校、※2 種市高校は、平成30年度から募集定員が80人となる。

[1学年4学級規模の高校] 6校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況(同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
花北青雲	情報工学	40	☆硬式野球、柔道、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バドミントン、陸上、吹奏楽、文芸・文学研究など、珠算、OA、工学研究、商業研究、P F S C
	ビジネス情報	80	
	総合生活	40	
水沢工業	機械	40	ボクシング 、☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ハンドボール、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、☆登山(山岳)、☆バスケットボール、陸上、吹奏楽、美術・芸術など、機械工作、無線・情報、新聞
	電気	40	
	設備システム	40	
	インテリア	40	
一関工業	電気	40	☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、写真、美術・芸術など、無線、放送、情報技術研究、工学研究、生活
	電子	40	
	電子機械	40	
	土木	40	
大東	普通	120	☆硬式野球、弓道、☆サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、演劇、音楽、茶道、華道、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、アニメイラストマンガ、鹿踊り
	情報ビジネス	40	
遠野	普通	160	☆硬式野球、弓道、剣道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、バスケットボール、◇バドミントン、陸上、音楽、◇茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、商業、邦楽、理研
宮古商業	商業	40	ヨット 、 レスリング 、☆硬式野球、剣道、柔道、◇サッカー、◇バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、◇卓球、バスケットボール、陸上、茶道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、J R C、家政、ワープロ、インターアクト、商業研究、太鼓
	会計	40	
	流通経済	40	
	情報	40	

[1学年5学級規模の高校] 14校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況(同好会等を含む) ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
盛岡第二	普通	200	バレーボール、ハンドボール、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、体操(新体操)、なぎなた、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽。文芸・文学研究など、美術・芸術など、箏曲、マンドリン・ギター、生物、J R C
盛岡農業	動物科学	40	スケート 、☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、☆バレーボール、スキー、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、登山(山岳)、バスケットボール、バドミントン、陸上、☆相撲、自転車、囲碁将棋、演劇、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など
	植物科学	40	
	食品科学	40	
	人間科学	40	
紫波総合	環境科学	40	自転車 、☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、演劇、音楽、◇茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、文化研究、イラスト、郷土芸能、理科研究
	総合	200	

【1学年5学級規模の高校】（つづき）

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
花巻南	人文科学・自然科学	120	☆硬式野球、弓道、剣道、☆サッカー、◇バレーボール、ハンドボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、体操（新体操）、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、茶道、華道、◇書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、家庭、JRC、合唱、日本音楽
	スポーツ健康科学	40	
	国際科学	40	
岩谷堂	総合	200	ウェイトリフティング 、☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、語学・国際理解など、演劇、茶道、華道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、アニメーション、鹿踊り、JRC、家庭
千厩	普通	120	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、☆登山（山岳）、バスケットボール、バドミントン、陸上、ボクシング、演劇、音楽、茶道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、箏曲
	生産技術	40	
	産業技術	40	
高田	普通	160	☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、音楽、茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、パソコン、JRC、家政
	海洋システム	40	
大船渡 ^{※1}	普通	200	☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、空手、囲碁将棋、演劇、音楽、科学（自然科学）、茶道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、パソコン、報道、JRC
大船渡東	農芸科学	40	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ラグビー、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、陸上、茶道、華道、書道、吹奏楽、美術・芸術など、太鼓、ロボット、インターアクト、ビジネス
	機械	40	
	電気電子	40	
	情報処理	40	
	食物文化	40	
釜石	普通・理数	200	☆硬式野球、弓道、剣道、サッカー、バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、ボクシング、空手、囲碁将棋、音楽、科学（自然科学）、華道、吹奏楽、美術・芸術など
釜石商工 ^{※2}	機械・電子機械	80	◇なぎなた 、☆硬式野球、弓道、☆サッカー、バレーボール、☆ラグビー、ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、空手、◇茶道、◇華道、写真、吹奏楽、美術・芸術など、ワープロ、工業
	電気電子	40	
	総合情報	80	
久慈	普通	200	☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、◇バドミントン、陸上、演劇、音楽、科学（自然科学）、茶道、吹奏楽、美術・芸術など、マンドリン
久慈東	総合	200	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、囲碁将棋、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、チアダンス、コンピュータ、手芸
福岡	普通	200	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、茶道、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、百人一首、理科研究

※1 大船渡高校は、平成30年度から募集定員が160人となる。※2 釜石商工高校は、平成30年度から募集定員が120人となる。

【1学年6学級規模の高校】 11校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
盛岡北	普通	240	☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、体操（新体操）、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学（自然科学）、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、家庭研究
盛岡南	普通	160	スキニ、豊山（山岳）、バスケットボール、陸上、ボクシング 、☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、水泳、◇ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、バドミントン、☆体操（新体操）、◇音楽、☆科学（自然科学）、軽音楽、茶道、写真、書道、◇吹奏楽、美術・芸術など、家庭、放送演劇
	体育コース	40	
	体育	40	
盛岡商業	流通ビジネス	80	☆サッカー 、☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、バレーボール、ハンドボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、☆軟式野球、華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、商業研究、ワープロ、情報処理研究
	会計ビジネス	80	
	情報ビジネス	80	
花巻北	普通	240	陸上 、☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、アーチェリー、囲碁将棋、語学・国際理解など、科学（自然科学）、軽音楽、茶道、写真、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、放送、合唱
黒沢尻北	普通	240	ラグビー 、☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、卓球、登山（山岳）、バスケットボール、バドミントン、陸上、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学（自然科学）、軽音楽、◇茶道、◇華道、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、放送、応援

〔1学年6学級規模の高校〕（つづき）

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
北上翔南	総合	240	陸上 、☆硬式野球、◇弓道、剣道、☆サッカー、バレーボール、◇ハンドボール、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、体操（新体操）フェンシング、語学・国際理解など、演劇、音楽、◇茶道、写真、書道、文芸・文化研究など、美術・芸術など、家庭、器楽、パソコン、JRC、鬼剣舞、イラスト
黒沢尻工業	機械	40	弓道、ボクシング、ボート 、☆硬式野球、剣道、柔道、☆バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、☆登山（山岳）、☆バスケットボール、バドミントン、陸上、軟式野球、囲碁将棋、写真、書道、吹奏楽、美術・芸術など、無線、編集、ボランティア、コンピュータ
	電気	40	
	電子	40	
	電子機械	40	
	土木	40	
材料技術	40		
水沢	普通・理数	240	ウェイトリフティング 、☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、☆登山（山岳）、バスケットボール、バドミントン、陸上、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学（自然科学）、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、フォークロック
一関第一	普通・理数	240	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、登山（山岳）、バスケットボール、バドミントン、陸上、軟式野球、囲碁将棋、語学・国際理解など、音楽、軽音楽、茶道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、生物、競技歌留多、パソコン
一関第二*	総合	240	フェンシング 、☆硬式野球、弓道、柔道、☆サッカー、バレーボール、水泳、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、バドミントン、陸上、語学・国際理解など、演劇、音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、理科研究、JRC、太鼓道場、商業研究
宮古	普通	240	ヨット 、☆硬式野球、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、☆ラグビー、ソフトテニス、◇ソフトボール、卓球、バスケットボール、陸上、ボート、空手、音楽、茶道、華道、書道、吹奏楽、文芸・文化研究など、美術・芸術など、生物、放送

※ 一関第二高校は、平成30年度から募集定員が200人となる。

〔1学年7学級規模の高校〕 5校

学校名	学科・学系 ・コース	募集 定員 (H29)	部の設置状況（同好会等を含む） ☆男子のみ ◇女子のみ ※ ゴシック体は、平成29年度県教育委員会がスポーツ特別強化指定校として指定した競技。
盛岡第一	普通・理数	280	陸上、登山（山岳） 、☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、☆ハンドボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、☆軟式野球、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、軽音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、物理、化学、生物、天文
盛岡第三	普通	280	☆硬式野球、弓道、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、☆ラグビー、水泳、スキー、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、◇体操（新体操）、ボート、空手、スケート、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学（自然科学）、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など
盛岡第四	普通	280	陸上 、☆硬式野球、剣道、柔道、☆サッカー、バレーボール、ハンドボール、水泳、◇ソフトボール、卓球、硬式テニス、登山（山岳）、バスケットボール、バドミントン、囲碁将棋、語学・国際理解など、演劇、音楽、科学（自然科学）、茶道、華道、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、弦楽、バトントワリング
不来方	人文・理数	160	弓道、ホッケー、ハンドボール、カヌー 、☆硬式野球、剣道、柔道、サッカー、バレーボール、☆ラグビー、水泳、ソフトテニス、卓球、◇硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、陸上、空手、語学・国際理解など、演劇、音楽、軽音楽、茶道、華道、写真、書道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、工芸
	芸術	40	
	外国語	40	
	体育	40	
盛岡工業	機械	40	☆ラグビー、ウェイトリフティング、アーチェリー、レスリング、スケート 、☆硬式野球、柔道、バレーボール、水泳、ソフトテニス、卓球、硬式テニス、☆登山（山岳）、バスケットボール、陸上、囲碁将棋、演劇、茶道、華道、吹奏楽、文芸・文学研究など、美術・芸術など、無線、化学、マイコン、天文、自動車、ギター、土木、機械、メカトロ、電気、建築、工業化学、デザイン
	電気	40	
	電子情報	40	
	電子機械	40	
	工業化学	40	
	土木	40	
	建築・デザイン	40	

(4) 県外生徒の受入れに関する全国状況

県外生徒の受入れ（全国募集）に関する全国状況

※ 都道府県教育委員会への調査をもとに、学校調整課で作成

1 全国募集を実施している高校がある都道府県（岩手県を含む）

27 道県

岩手県、北海道、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、石川県、長野県、岐阜県、静岡県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県

2 全国募集を始めた主な背景等

- ・ 少子化が進行する中で、教育活動の活性化を推進
- ・ 小規模化する学校の活性化と、地方創生の実現
- ・ 募集定員の確保
- ・ 特色ある学校、学科で学びたい生徒のための学ぶ機会の拡大
- ・ 地場産業を教育資源として活用した教育活動の展開
- ・ スポーツを通じた学校や地域の特色化・活性化に貢献できる人材の育成
- ・ 意欲があり、進路意識の高い生徒が県外から入学し、県内生徒と切磋琢磨することによる学校の活性化

3 全国募集の主な条件等

(1) 全国募集をする学校を指定し、保護者に代わる身元引受人が学区内や県内にいることで受け入れ可能とする

(例) 福島県 : 川口高校、南会津高校、只見高校の3校（普通科）については、学区内に身元引受人が居住すること、ふたば未来学園高校（総合学科）については、県内に身元引受人が居住することを条件としている。

(2) 県立高校の全学科で、募集定員の一定割合を受け入れ可能とする

(例) 秋田県 : 前期選抜試験で各学科の募集定員の5%を上限としている。（前期選抜試験の募集定員は学校ごととなっている。）

熊本県 : 募集人員の5%以内で県外からの入学生を認めている。なお、平成30年度からは、球磨工業高校（建築科・伝統建築コース 募集定員の20%以内）、八代農業高校泉分校（グリーンライフ科 募集定員の10%以内）、菊池農業高校（畜産科学科 募集定員の20%以内）の3校で全国募集を開始する。

(3) 全国募集をする学校と学科、特定の部活動を指定し、募集定員の一定割合を受け入れ可能とする

(例) 栃木県 : 日光明峰高校(普通科)については、アイスホッケー、スピードスケート競技での活躍を目指す者を条件とし、募集定員の20%以内としている。他に、馬頭高校(水産科)でも、全国募集をしている。

奈良県 : 御所実業高校の5学科(環境緑地、機械工学、電気工学、都市工学、薬品科学)では、ラグビー部に所属し、選手として3年間継続して活動する意欲のある者を条件とし、募集定員の10%を上限としている。また、薬品科学科では、学科に対して強い目的意識がある者を条件とした募集も併せて行っている。他には、山辺高校(普通科、生物科学科)、榛生昇陽高校(普通科 人間探究コース)、十津川高校(普通科 工芸コース)でも全国募集をしている。

4 全国募集の主な課題

- ・ 寮や下宿等、生徒が居住する場所の確保
- ・ 宿舎等での生徒の健康管理や生活指導等
- ・ 寮を整備運営している地元自治体の経済的負担
- ・ 県に宿舎の確保等を求められることによる財政支援のあり方
- ・ 全国募集に関するPR方法
- ・ 小規模校の特色化を推進するに当たっての地域の協力態勢の維持
- ・ 志願者がいない高校や、年度により志願者の偏りがある

(5) 全国募集を実施している高校・学科等の例

通学区等々の状況に係る調査結果（平成29年10月 県教委実施）
対象：都道府県教育委員会（回答率100%）

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募 集 開始年 度	県外からの志願者数等 の推移			全国募集 の規模	全国募集 の条件
					H27	H28	H29		
秋田	全ての県立高校及び秋田市立秋田商業高校	全学科	高校ごと	H17	1.07倍 全日制	1.01倍 (〃)	1.00倍 (〃)	各学科の募集定員の5%を上限(前期選抜)	—
福島	川口高校	普通科	70	H14	41*	50*	37*	県外からの志願者も含めた、全体の志願者数	学区内に身元引受人が居住すること
	南会津高校	普通科	70	H14	46*	52*	50*		
	只見高校	普通科	70	H14	40*	36*	47*		
	ふたば未来学園高校	総合学科	160(H27:120)	H27	152*	142*	155*		県内に身元引受人が居住すること
茨城	大子清流高校	農林科学科	40	H20	0	2	1	—	学科に対する目的意識が強く、入学日までに身元引受人がいること
	海洋高校	海洋技術科	40	H20	1	0	1		
		海洋食品科	40	H20	0	0	0		
		海洋産業科	40	H20	0	0	1		
	大洗高校	普通科音楽コース	40	H20	18	15	11		
	真壁高校	環境緑地科	40	H28	—	0	1		
栃木	日光明峰高校	普通科	120 (H30:80)	H28	—	5	2	募集定員の20%以内	アイスホッケー、スピードスケート競技での活躍を目指す者
	馬頭高校	水産科	25	H11	2	0	2	—	
新潟	新潟中央高校	音楽科	40	H25	0	0	0	上限なし	—
	新津工業高校	工業マスター科	40	H25	0	0	0		
		日本建築科	30	H25	0	0	1		
		国際情報高校	国際文化科	80	H25	0	0		
		情報科学科	80	H25	0	0	0		
	八海高校	体育科	40	H7	1	3	1		
	海洋高校	水産学科	80	H11	5	16	20		
	新発田農業高校	農業科	160	H11	0	0	0		
	長岡農業高校	農業科	160	H11	0	1	1	上限なし	—
	加茂農林高校	農業科	200	H11	0	0	0		
高田農業高校	農業科	160	H11	0	0	0			
長野	飯山高校	スポーツ科学科	40	H4	2	4	5	—	同学科へ志願を強く希望し、かつ入寮する場合
	白馬高校	国際観光科	40	H28	—	13	18		同学科へ志願を強く希望する場合
滋賀	信楽高校	総合学科	80	H26	4	4	2	5人まで	信楽地域の伝統産業に関わるセラミック・デザインに強い興味・関心があり、将来に対する目的意識が明確な者
奈良	山辺高校	普通科(生活文化コース)	40	H27	0	0	2	募集人員の10%を上限	馬術部、ライフル射撃部に所属し、選手として3年間継続して活動する意欲のある者
		生物科学科	37	H27	0	1	1		

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募集 開始年度	県外からの志願者数等 の推移			全国募集 の規模	全国募集 の条件	
					H27	H28	H29			
奈良 (つづき)	御所実業高校	環境緑地科	37	H27	3	3	3	募集人員の 10%を上限	ラグビー部に 所属し、選手 として3年間 継続して活動 する意欲のある者	
		機械工学科	74	H27	4	7	7		薬品科学科に 対して強い目的 意識がある者	
		電気工学科	37	H27	3	3	3			
		都市工学科	37	H27	3	3	3			
	榛生昇陽高校	普通科(人間 探究コース)	37	H28	—	3	2		自転車競技部 に所属し、選手 として3年間 継続して活動 する意欲のある者	
				H28	—	3	3			
				H27	0	2	0			
十津川高校	普通科(工 芸コース)	30	H27	0	0	0	ボート部に所 属し、選手と して3年間 継続して活動 する意欲のある者			
			H28	—	2	0		普通科(工芸 コース)に 対して強い目的 意識がある者		
和歌山	海南高校 美里分校	普通科	40	H17	0	0	1	募集定員に 対する割合10% 程度	他の公立高等 学校に出願し ないことを証 明する「証明 書」を志願先 の高等学校長 に提出	
	有田中央高校 清水分校	普通科	40	H17	0	0	0			
	日高高校 中津分校	普通科	40	H17	9	11	6			
	南部高校 龍神分校	普通科	40	H17	2	0	1			募集定員に 対する割合30% 程度
	串本古座高校	普通科	120	H29	—	—	3			募集定員に 対する割合5% 程度(H30は 10%)
島根	安来高校	普通科	160	H28	—	0	2	—	県内に居住し ている身元引 受人がいるこ と	
	情報科学高校	情報システム科 情報処理科 マルチメディア科	一括 120	H28	—	1	0	入学定員の 5%を上限		
	大東高校	普通科	120	H28	—	0	2	入学定員の 4%を上限		
	横田高校	普通科	120	H22	5	4	10	—		
	三刀屋高校	総合学科	160	H28	—	3	0	入学定員の 8%を上限		
	飯南高校	普通科	80	H25	3	12	6	—		
	漕摩高校	総合学科	120	H28	—	0	0	入学定員の 8%を上限		
	島根中央高校	普通科	90	H22	22	34	24	入学定員の 38%を上限		
矢上高校	普通科 産業技術科	普 60 産 30	H22	13	14	18	・普：入学定 員の30%を 上限 ・産：入学定 員の40%を 上限			

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募 集 開始年 度	県外からの志願者数等 の推移			全国募集 の規模	全国募集の条 件
					H27	H28	H29		
島根 (つづき)	江津高校	普通科	80	H28	—	0	1	入学定員の 5%を上限	県内に居住し ている身元引 受人がいるこ と
	江津工業高校	機械・ロボット 科 建築・電 気科	各 40	H28	—	1	0	—	
	浜田商業高校	商業科 情報処理科	一括 80	H28	—	0	0	入学定員の 10%を上限	
	浜田水産高校	海洋技術科 食品流通科	各 40	H22	7	7	14	—	
	益田翔陽高校	電子機械科 電気科 生物環境工 学科 総合学科	各 40	H28	—	10	12	—	
	吉賀高校	普通科	40	H27	2	5	8	入学定員の 20%を上限	
	津和野高校	普通科	80	H22	14	20	21	入学定員の 30%を上限	
	隠岐高校	普通科 商業科	普 60 商 30	H22	4	4	3	入学定員の 10%を上限	
	隠岐島前高校	普通科	80	H22	24	25	25	入学定員の 30%を上限	
	隠岐水産高校	海洋システム科 海洋生産科	各 40	H22	18	16	14	—	
徳島	鳴門渦潮高校	体育科	60	H28	8	9	9	募集定員の 15%以内 2人以内	県内に居住す る成人の保証 人が必要
		総合学科	175	H28					
	名西高校	芸術科	45	H28	—	0	1	募集定員の 15%以内	
	海部高校	普通科、商 業科、理数 科	120	H28	1	3	1	5人以内	
	那賀高校	普通科、農 業科	75	H28	2	4	4		
	吉野川高校	農業科、商 業科	130	H28	—	0	0		
	穴吹高校	普通科	70	H28	—	0	0		
	つるぎ高校	工業科、商 業科	175	H28	—	0	0		
	城西高校 神山分校	農業科	30	H28	—	0	0		
	小松島西高校 勝浦校	農業科	40	H28	—	0	0		
	池田高校三好 校	農業科	35	H28	—	0	0		
	城東高校	普通科	320	H29	—	—	0	2人以内	
	小松島高校	普通科	215	H29	—	—	1		
	富岡東高校	普通科、商 業科	200	H28	—	2	1		
脇町高校	普通科	190	H28	—	2	2			
池田高校	普通科、理 数科	175	H28	—	0	1			
高知	室戸高校	総合学科	80	H8	11	12	5	特になし	県内に居住し ている身元引 受人がいるこ と
	嶺北高校	普通科	80	H8	0	0	0		

都道府県	学校名 (県立省略)	学科名	学科の 募集定員	全国募 集 開始年 度	県外からの志願者数等 の推移			全国募集 の規模	全国募集 の条件
					H27	H28	H29		
高知 (つづき)	高知追手前高 校吾北分校	普通科	40	—	0	0	1	特になし	県内に居住し ている身元引 受人があるこ と
	高知海洋高校	海洋学科	80	H8	4	2	3		
	須崎工業高校	機械系学科 造船専攻	20	H8	0	0	0		
	禰原高校	普通科	80	H8	0	0	1		
	四万十高校	普通科 普通科(自然環境コース)	80	H8	0	1	1	—	—
	中村高校 西土佐分校	普通科	40	H8	0	0	1	—	—
熊本	球磨工業高校	建築科・伝 統建築コース	20	H30	—	—	—	募集人員の 20%以内	教育課程が、 全国あるいは 九州で特色の ある学科・コース
	八代農業高校 泉分校	グリーンライフ科	40	H30	—	—	—	募集人員の 10%以内	
	菊池農業高校	畜産科学科	40	H30	—	—	—	募集人員の 20%以内	
鹿児島	県立	普通科を除く 専門学科及 び総合学科	学科ご と	/	/	/	/	—	出願に必要な 提出書類のほ か、「県外公立 高等学校志願 についての証 明書」を出願 時に提出す る。
	県立	該当年度の 募集定員が 120人を超 えない高等 学校の普通 科、熊毛・ 大島学区内 の高等学校 の普通科	学科ご と	H26	10	12	9	—	遠方からの入 学は、下宿・ 寮等の受入先 があることが 前提
	楠隼高校	普通科	60 (H30か ら90)	H27	34	12	5	※H27開校	全寮制
	開陽高校	普通科	120	H15	0	1	1	—	遠方からの入 学は、下宿・ 寮等の受入先 があることが 前提

3 通学区域のあり方について

(1) 通学区域に関する全国の状況

○ 設定している → 22道府県

岩手、北海道、山形、福島、千葉、富山、長野、愛知、三重、京都、
兵庫、島根、岡山、徳島、香川、愛媛、福岡、佐賀、長崎、熊本、
鹿児島、沖縄

○ 設定していない → 25都府県

都府県	通学区域廃止年度	都道府県	通学区域廃止年度
青森	H17	岐阜	H30
宮城	H22	静岡	H20
秋田	H17	滋賀	H18
茨城	H18	大阪	H26
栃木	H26	奈良	H18
群馬	H19	和歌山	H15
埼玉	H16	鳥取	H19
東京	H15	広島	H18
神奈川	H17	山口	H28
新潟	H20	高知	H24
石川	H17	大分	H20
福井	H16	宮崎	H20
山梨	H19		

(2) 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の経緯等

都府県	廃止の経緯等
青森	<p>○ 平成 15 年 6 月、学校教育関係者からなる青森県立高等学校入学者選抜研究協議会に入学者選抜制度の在り方について検討を依頼し、その中で、通学区域について検討がなされ、平成 16 年 1 月に同協議会から、子どもたちが住んでいる地域によって制限されることなく自由に学校を選択できることが望ましいとの報告を受け、学区による出願制限を撤廃し、平成 17 年度の入学者選抜から通学区域を県下一円とした。</p>
宮城	<p>○ 県立高校の通学区域（学区制）の在り方について、高等学校入学者選抜審議会の答申を受け、平成 18 年 11 月から県立高等学校の通学区域の在り方について協議し、平成 19 年 3 月に、下記の理由により、審議会の答申のとおり全県一学区化とすることを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の学校選択の自由が確保され、学校の活性化が期待されるなど、通学区域の撤廃によってもたらされる効果が大きいこと。 ・ 懸念事項については、地方の進学拠点校の進路実績や総合学科等の地区間志願者の動向等から考えて、その可能性が現実的には小さく、しっかりとした対策に取り組むことによって回避することが十分可能であること。
秋田	<p>○ 平成 17 年度入試で、生徒が希望する高校をこれまで以上にチャレンジできるように入試制度の大幅な変更をし、その一環として通学区域を廃止した。</p>
茨城	<p>○ 以下の課題を踏まえ、平成 18 年度から通学区域を廃止し全県一学区とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生がその能力や適性、進路希望等に応じて広い範囲で学校選択を望んでも、通学区域により制限 ・ 全県一学区の単位制や総合学科等の新しいタイプの高校が増加 ・ 2つの通学区をまたいだ市町村合併への対応が必要 ・ つくばエクスプレスの開通等による交通体系の変化への対応が必要
栃木	<p>○ 志願者が県内のどこに住んでいても同じ条件で、できるだけ多くの高校から自由に行きたい高校を選べるようにするため、平成 26 年度に通学区域を廃止した。</p>
群馬	<p>○ 平成 12 年から 13 年に有識者による群馬県学校教育改革推進計画策定委員会を開催し、生徒の選択幅を拡大する方向で検討することが適当との報告があり、平成 14 年 2 月に策定した「高校教育改革基本方針」において、高校入学者選抜及び通学区域の見直しを行うこととした。そして、平成 17 年 3 月に、平成 19 年度入学者選抜から、全日制課程普通科の通学区域を群馬県全域とすることを決定した。</p>
埼玉	<p>○ 通学区域については、教育関係者や学識経験者から構成された平成 13 年の「彩の国教育改革会議」提言、平成 14 年度に県民意識調査の実施、平成 15 年の「埼玉県高等学校教育振興協議会」から「生徒・保護者の視点に立ち、自らの意志と責任において自由な学校選択が保障されることが大切であり、（全県一学区の専門学科や総合学科と同様に）全日制課程普通科の高等学校についても通学区域を設けないことが適当である。」との答申を受け、平成 16 年度入試から廃止をした。</p>

都府県	廃止の経緯等
東京	○ 学区の見直しについては、従前からの課題を総括するものとして、平成 11 年～13 年にかけて、東京都立高等学校学区制度検討委員会において検討がなされた。その結果、生徒の学校選択幅の拡大や都立高校の特色ある学校づくりを推進するため、学区を撤廃すべきとの答申があり、これを受け、平成 15 年度入学者選抜から学区を撤廃することとした（撤廃前は、区部 6、多摩地区 3、島しょ地区 1 の合計 10 の学区を設定していた。）。
神奈川	○ 本県の県立高等学校入学者選抜制度では、過去に学区を設けていましたが、本県が平成 13 年 4 月に設置した「入学者選抜制度・学区検討協議会」において、「学区については特色ある高校の選択幅を拡大する視点から、一人ひとりの個を生かし、高校の選択幅をより一層拡大することができ、また、住んでいる地域によって規制を受けることなく、高校選択の量的均等・質的均等を図ることができるよう、学区を撤廃することが望ましい」との報告が平成 15 年 2 月にあり、平成 17 年度の入学者選抜から学区を撤廃しました。
新潟	○ 平成 20 年 4 月入学者から通学区域の廃止を行った。（県立学校条例の変更 平成 19 年 2 月議会） ○ 市町村合併などによる生活圏域の変化や通学手段等の変化から、生徒の通学可能な範囲が広がったことなどから、より希望や能力に応じて、主体的な学校選択を可能とした。
石川	○ 平成 15 年 9 月「県立高等学校の学区制の在り方検討会」設置。通学区域の現状と課題、学区制の在り方について検討がなされ、「教育の機会均等上から学区制を廃止すべきである」とのまとめが出された。平成 16 年 2 月「石川の学校教育推進会議」において、「生徒の学校選択幅を拡大するとともに選ばれるための活力ある学校づくりに繋がるという意味で、高等学校の学区制を全県一区にする」とのまとめが出された。PTAとの意見交換会や中学校、高校長からの意見聴取などを踏まえ、平成 17 年 4 月より県立高等学校の通学区域を廃止。
福井	○ 福井県教育委員会の諮問を受け、平成 14 年 8 月の福井県高等学校教育問題協議会において、「生徒の進路についての選択可能性を拡大するため、学校群制度を廃止するとともに普通科・理数科の学区は全県一円とする。」という答申が出された。見直しに伴う準備と周知のため、平成 16 年度入学者選抜から学校群制度を廃止し、通学区域を全県一円とした。
山梨	○ 平成 19 年まで普通高校には通学区域を設定し、小学区・総合選抜制度を実施していた。公立高校の通学区域の弾力化や、教育の個性化・多様化を進める国の方針を受け、中学生及び高校生とその保護者、また中学・高校の教員を対象に「通学区域等に関するアンケート」を実施したところ、見直しを望む回答が 7 割に及んだ。こういった経緯を踏まえ、小学区・総合選抜制度を廃止し平成 19 年度入試から全県一学区とした。
岐阜	○ 学年制普通科については、平成 29 年度入試までは、県内を 6 学区に分けた通学区域を設けていたが、平成 30 年度入試から撤廃した。なお、専門学科、総合学科、単位制普通科の高校は、従来から通学区域の制限はなく全県一区である。

都府県	廃止の経緯等
静岡	<p>(1) 平成 14 年度以前の入学者選抜制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全日制課程普通科 → 隣接学区から募集定員の 10%以内で入学を許可 ○ 専門教育を主とする学科、総合学科、定時制の課程、通信制の課程 → 県内全域から志願可 <p>(2) 平成 15 年度～平成 19 年度の入学者選抜制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全日制課程普通科 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期選抜 → 県内全域から志願可 ・ 後期選抜 → 隣接学区から志願可 ○ 専門教育を主とする学科、総合学科、定時制の課程、通信制の課程 → 県内全域から志願可 <p>(3) 平成 20 年度以降の入学者選抜制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全日制的課程（普通科、専門教育を主とする学科、総合学科） <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般選抜 → 県内全域から志願可 ・ 特別選抜（海外帰国生徒選抜、外国人生徒選抜、長期欠席生徒選抜） → 県内全域から志願可 ・ 特別選抜（連携型選抜） → 連携型中高一貫教育実施校における連携型中学校からの受検者対象 ○ 定時制の課程、通信制の課程 → 県内全域から志願可
滋賀	<p>○ 県民生活圏の拡大や交通事情の改善など、高校選択をとりまく社会経済状況が大きく変化するとともに、平成 13 年の法改正で公立高等学校の通学区域を定める規定が削除されたことも受け、平成 15 年 6 月に県立高等学校通学区域制度検討委員会を設置し、通学区域に対する県民意識調査を踏まえて検討を行った結果、平成 18 年度の入学者から全県一区とした。</p>
大阪	<p>○ 高等学校教育の機会均等を図るため、本府の地域社会の実情を踏まえ、平成 19 年度より通学区域は 9 学区から 4 学区に改編した。その後、通学区域を撤廃することで、すべての中学生がより自由に学校選択できる環境を作ってもらいたいという府民の要望と、各高校が一層切磋琢磨し、教育内容の改善を図ることにより大阪府全体の高校教育が向上していくとの考えから、平成 26 年度から通学区域を府内全域とした。</p>
奈良	<p>○ 法律で高等学校の通学区域の指定が定められていたが平成 14 年に削除され、通学区域の設定は教育委員会の判断に委ねられることになり、平成 18 年度から通学区域を県内全域とした。</p>
和歌山	<p>○ 平成 15 年度 和歌山県立高等学校通学区域に関する規則を廃止</p> <p><主な理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校進学率が 97%を超え、高校教育の普及と機会均等をほぼ達成した。 ・ 募集定員に占める全県一区の割合が 50%を上回っていた。（全県一区の学科が 50%以上となった。） ・ 生徒の選択幅の拡大と高校の特色化を図るため。

都府県	廃止の経緯等
鳥取	<p>○ 従来、県立高等学校の全日制課程普通学科には3つの通学区域を設定していたが、各学校の特色化の進行に合わせて中学生の選択幅の拡大を図る必要があることや、一部の中学校で存在する通学区域の不均衡を解消する必要があることなどから、平成19年度から全日制課程普通学科の通学区域を県全域とする見直しを行った。</p> <p><背景・理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通学科各校の特色づくりに対応し、中学生の学校選択幅を拡大する必要があった ・ 平成16年度からの市町村合併に伴う市町域の拡大により、同一市町内の中学校であっても通学区域が異なる状況が生じた ・ 同一中学校に在籍する生徒であっても、居住地により通学区域が異なる現状があった ・ 専門学科および総合学科の通学区域はすでに県全域化されていた（専門学科については昭和41年から、総合学科については平成10年から実施）
広島	<p>○ 従前は通学区域を15学区としていたところ、平成13年10月の「広島県高校教育改革推進協議会」答申において、今後の通学区域のあるべき姿は「全県一円」であるが、直ちに全県一円とすることについては生徒・保護者や中学校の進路指導等に大きな影響を与えるため、生活圏域や交通事情等に配慮しながら拡大していくことが適当であると提言されたことを踏まえ、平成15年度入試から、15学区から6学区へ通学区域の拡大を行った。その後、さらに生徒がその個性と能力によって学校を選択できるようにするため、平成18年度入試から、通学区域を全県一円としているところである。</p>
山口	<p>○ 全日制課程普通科の通学区域については、平成14年度に、複数の特色ある高校を含む適度な広さの確保、通学区域における地域間格差の是正の観点から、26通学区域を7通学区域に変更（学区外志願枠5%）し、平成21年度に、学区外志願枠を10%に拡大して、平成28年度に、中学生の主体的な学校選択をさらに促すため、県内全域とした。</p> <p>（参考） 職業学科（商業を除く）は昭和41年度から、商業科は昭和42年度から通学区域を県内全域としている。</p>
高知	<p>○ 昭和38年4月：高知県立高等学校の通学区域に関する規則により、高知、東部、高吾、西部の4学区が設置される。</p> <p>○ 平成22年度入試：東部、高吾、西部の3学区の撤廃。高知学区は区外枠10%以内を15%以内に拡大。</p> <p>○ 平成23年度入試 高知学区の区外枠15%以内を20%以内に拡大。</p> <p>○ 平成24年度入試 高知学区の撤廃。</p>
大分	<p>○ 高校教育改革推進計画の実施に伴い、平成20年度入試から全日制課程普通科の通学区域制度を廃止して、全県1区とした。多様化する生徒一人ひとりのニーズに対応し、生徒の学校選択の自由を拡大し、自ら学ぶ意欲を育むとともに、自分にあった学校を主体的に選択できるよう、選択の幅を広げることなどを方向性としたもの。</p>

都府県	廃止の経緯等
宮崎	○ 平成 13 年度～17 年度にかけて、外部有識者等から構成される「宮崎県教育改革推進協議会」において、県立普通科高校の通学区域の見直し等について検討がなされ、同協議会から「通学区域を撤廃することにより、中学生の学校選択の自由が拡大され、主体的な高校選択が可能となり、中学生の進路意識や学習意欲を高めることができることや、普通科高校の今まで以上の特色化や活性化が期待されるので、できるだけ早期に撤廃することが望ましい。そのため、普通科高校においては、より一層の特色づくりやそのPR、地域との連携を推進する必要がある。」等の報告があった。これらの意見を踏まえ、平成 17 年度に記者発表、平成 20 年度から通学区域を撤廃し、現在に至る。

(3) 通学区域を設置していない都府県における通学区域廃止の影響

都府県（廃止年度）	廃止の影響（入学志願者の動向等）
茨城（H18）	○ 撤廃当初はなかったが、現在、高校の二極化への影響は否めない。
神奈川（H17）	○ 入学志願者の動向については、学区が撤廃される直前の平成 16 年度入学者選抜において、学区外の県立高等学校を受検した者の割合は 14.8%でしたが、学区が撤廃された直後の平成 17 年度において、旧学区外の県立高等学校を受検した者の割合は 29.3%となりました。その後、旧学区外の県立高等学校を受検した者の割合は平成 26 年度入学者選抜まで増加し続け、平成 26 年度には旧学区外の県立高等学校を受検した者の割合は 51.2%となりました。また、平成 28 年度においては 50.3%となっています。
福井（H16）	○ 学区が全県一円となり、受験生の福井市への流入が増えている。
山梨（H19）	○ 全県一学区になったことから、受験生は希望する高校へ制限なく出願が可能となった。各高校は生徒獲得のため、学校の魅力化を図る取り組みにより一層力を入れるようになった。受験生の傾向とすると、県中心部（甲府市内）の高校を目指す生徒が増えた。
滋賀（H18）	○ 平成 18 年度の入学者以降、新たに受検が可能となった高校への進学者は、普通科進学者の 5%～8%となっている。
大阪（H26）	○ 旧の通学区域の境にある高等学校において、旧の通学区域外からの志願者の割合が高まった。また、交通の便の良い高等学校に、志願者が集まる傾向がある。
大分（H20）	○ 一次入試での旧通学区域外からの大分市内県立普通科高校への流入割合は、全県一区導入前に認めていた制限枠よりも低い。

※ 上記以外については、平成 30 年度から導入する県を除き、「学区を見直したことによる大きな影響等はなかった」といった内容の回答であった。

県立高等学校における生徒の多様な 受入れのあり方に関する検討会議事務局

岩手県教育委員会事務局
学校教育課・学校調整課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号

TEL 019-629-6205

FAX 019-629-6144

電子メール : DB0004@pref.iwate.jp